

官報

號外 昭和十四年三月十日

○第七十四回 衆議院議事速記録第二十三號

昭和十四年三月九日(木曜日)

午後一時五十分開議

議事日程 第二十二號

昭和十四年三月九日

午後一時開議

映畫法案(政府提出) 第一讀會

工業組合法中改正法律案(政府提出)

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案(政府提出)

正法律案(兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件)(政府提出)

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案(政府提出)

船舶建造融資補給及損失補償法案(政府提出)

大日本航空株式會社法案(政府提出)

日本產金振興株式會社法中改正案(政府提出)

法律案(政府提出) 第一讀會
保險業法改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告) 第一讀會
法律案(政府提出) 第一讀會
青年學校教育費國庫補助法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告) 第一讀會
日本產金振興株式會社法中改正法律案(政府提出)
日本產金振興株式會社法中改正法律案(以上三月八日提出)

第十 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 臺灣米穀移出管理特別會計法(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)
一今九日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

裁判所構成法中改正法律案

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノ爲茲ニ掲載ス)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

工業組合法中改正法律案(以上三月七日提出)

(兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件)

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案(以上三月七日提出)

船舶建造融資補給及損失補償法案(以上三月七日提出)

大日本航空株式會社法案(以上三月七日提出)

日本產金振興株式會社法中改正案(以上三月七日提出)

法律案(以上三月七日提出)

日本產金振興株式會社法中改正法律案(以上三月七日提出)

日本產金振興株式會社法中改正法律案(以上三月八日提出)

日本產金振興株式會社法中改正法律案(以上三月八日提出)

日本產金振興株式會社法中改正法律案(以上三月八日提出)

日本產金振興株式會社法中改正法律案(以上三月八日提出)

一去七日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算案竝昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

辯護士法中改正法律案

神祇官復興ニ關スル建議案

上北地峽運河開鑿ニ關スル建議案

提出者 工藤 鐵男君

菊池 良一君

小笠原八十美君

森田重次郎君

小野 謙一君

工藤 鐵男君

熊谷 直太君

工藤 鐵男君

東北六縣ノ港灣修築促進ニ關スル建議案

提出者 村松 久義君

熊谷驛ヨリ太田町ヲ經テ桐生驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 熊谷 直太君

石坂 養平君

鶴岡大鳥間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 熊谷 直太君

鶴岡羽前高松間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 熊谷 直太君

農民及勞動者ニ地下タビ配給ニ關スル建議案

提出者 熊谷 直太君

鶴岡多治見間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 岡本實太郎君

深澤豐太郎君

依光 好秋君

馬岡 次郎君

服部 英明君

岡本實太郎君

古屋 慶隆君

大野 一造君

山崎 常吉君

鈴木 正吾君

稻田 直道君

河合 義一君

片山 哲君

肥料專賣ニ關スル建議案

提出者 馬岡 次郎君

古田喜三太君

作田高太郎君

山道 裏一君

木原 七郎君

市町村吏員ノ待遇改善ニ關スル建議案

提出者

稻田 直道君

一ノ瀨俊民君

沖島 鎌三君 松尾 孝之君

播丹鐵道買收ニ關スル建議案

提出者

京都米原間鐵道増線並電化ニ關スル建議案

案

提出者

服部 岩吉君

森 幸太郎君

地方自治團體名譽職ノ待遇ニ關スル建議案

案

提出者

出井 兵吉君

田中 源君

石坂 養平君 坪山 德彌君

宮本雄一郎君 山口忠五郎君

佐藤洋之助君

立川 平君 田子 一民君

木本貞太郎君 牧野 賤男君

大本貞太郎君 庄 晋太郎君

淺井 茂猪君 松木 弘君

江羅直三郎君 小見山七十五郎君

小串 清一君 池田七郎兵衛君

島根縣高等工業學校設置ニ關スル建議案

案

提出者

湯澤驛ヨリ西馬音内町矢島町ヲ經テ本莊驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

中川 重春君

小山田義孝君

信太儀右衛門君 中田 儀直君

小山倉之助君 土田 莊助君

(以上三月八日提出)

一去七日特別委員選舉ノ結果左ノ如シ

決算委員

理事 服部 英明君 (理事小林三郎君)

去六日委員辭任ニ付其ノ補闕

案

(政府提出)委員

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

如シ

提出者

君去六日委員辭任ニ付其ノ補

闕

案

提出者

稻田 直道君

一ノ瀨俊民君

松尾 孝之君

播丹鐵道買收ニ關スル建議案

提出者

京都米原間鐵道増線並電化ニ關スル建議案

案

提出者

服部 岩吉君

森 幸太郎君

地方自治團體名譽職ノ待遇ニ關スル建議案

案

提出者

井上 良次君 (理事佐竹晴記君)

去六日委員辭任ニ付其ノ補闕

案

提出者

井上 良次君 (理事佐竹晴記君)

去六日委員辭任ニ付其ノ補闕

ノ如シ

職員健康保險法案(政府提出)委員

委員長 真鍋 勝君 (委員長紫安新)

九郎君去六日委員辭任ニ付其ノ補闕)

案

輕金屬製造事業法案(政府提出)委員

釣本 衛雄君 卵尾田毅太郎君

坪山 德彌君 墓賀 四郎君 池田 清秋君

寺島 権藏君 駒井 重次君

栗山 博君 森田 政義君

第六部選出 決算委員 川俣 清音君 (佐竹晴記君)

補闕

大石 大君

一去七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任

委員左ノ如シ

第八部選出豫算委員

大石 大君

一去七日委員長及理事五選ノ結果左ノ如シ

米穀配給統制法案(政府提出)委員

委員長

添田敬一郎君

外一件委員

辭任小山 長谷 長次君

一去七日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案

(鐵ノ輸入税免除ニ關スル件)(政府提出)

外一件委員

辭任高木条太郎君 楠井 義道君

一去七日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ

如シ

(政府提出)委員

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

案

提出者

君去六日委員辭任ニ付其ノ補

闕

案

提出者

中川 重春君

小山田義孝君

信太儀右衛門君 中田 儀直君

小山倉之助君 土田 莊助君

(以上三月八日提出)

大藏書記官 迫水 久常

第七十四回帝國議會大藏省所管事務政府

委員被仰付

案

輕金屬製造事業法案(政府提出)委員

委員長

釣本 衛雄君 卵尾田毅太郎君

坪山 德彌君 葉梨新五郎君

一昨八日委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第八部選出

豫算委員 三田村武夫君 (大石大君補

闕)

一昨八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

支那事變特別稅法中改正法律案(政府提

出)外二件委員

辭任小畠虎之助君 補闕池本甚四郎君

人事調停法案(政府提出)委員

辭任中村 高一君 補闕佐竹 晴記君

案

提出者

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、御報告申上ダルコトガアリマス、昨日

清宮貴子内親王殿ノ御命名ノ儀執り行ハ

セラレタルニ付、議長ハ本院ノ決議ニ基キ

マシテ、宮城ニ參内、宮内大臣ヲ經テ御祝

詞ヲ言上致シ、次テ大宮御所ニ參入、皇太

后宮太夫ヲ經テ御祝詞ヲ言上致シマシタ、

此段謹シテ御報告申上ダマス

(拍手起ル)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ此ノ際日程第八ヲ繰上

ゲ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望

ミマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第八、保険業法改正法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長田中亮一君

第八 保険業法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

一 保険業法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十四年三月七日

委員長 田中 亮一

衆議院議長小山松壽殿
〔田中亮一君登壇〕

○田中亮一君 只今議題トナツテ居リマス

ル保険業法改正法律案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲタイト思

フノデアリマス 本法案ノ改訂ノ目的ハ、第一ニ商法ノ改

正ニ伴ヒ、改正商法トノ調和ヲ保ツ必要ヲ

生ジタルコトデアリマス、第二ニハ、現行

保険業法ハ明治三十三年ノ制定デアリマス、既ニ四十年ヲ経過シ、現下ノ諸事情ニ徴シマシテ不備ノ點ガ少カラザルモ

ノガアリマスノデ、之ニ鑑ミマシテ監督指導ノ方策ヲ整備スルニアルノデアリ

マス、其ノ内容ニ於キマシテハ、其ノ一ハ監督命令ニ關スル規定ヲ整備シ、又

事業ノ統制協定ニ關スル規定ヲ設ケタノデアリマス、其ノ一ノ業績不良ノ會社ニ對シマ

シテ事業ノ管理合併、又ハ契約ノ移轉ヲ爲スベキコトヲ勸告シ、或ハ命令シ得ル旨ノ

規定ヲ設ケタノデアリマス、其ノ他株式會社ノ相互間、株式會社ト相互會社トノ合併、

保険計理人等ノ制度ヲ設ケマシテ、又財產ノ評價ニ關スル規定ヲ整備シタ等ニアリマス、尙ホ幾多重要ナル改正ヲ含ンデ居ルノ

デアリマスルカラ、此ノ法案ハ我國ノ保險行政ノ上ニ重大ナル意義ヲ有スルガ故ニ、

委員會ハ前後八回ニ亘リマシテ、午前午後ヲ通ジ、極メテ熱心ニ且ツ慎重ニ論議ヲ致シタノデアリマス、今其ノ主ナルモノノ二三ヲ舉ゲマスレバ、第一ハ保険國營ニ關スル問題デアリマス、即チ保険事業殊ニ生命保

險ハ多額ノ利益ヲ舉ゲテ居ルノミナラズ、不當ノ競争其ノ他種々不備缺點ヲ生ジテ居ルガ、政府ハ生命保険ノ國營ヲ斷行スルコトニ依ツテ、是等ノ弊害ヲ一掃スル意思ハナイカ、又損害保険ノ再保険ニ依ル海外拂ハ相當多額ニ上ツテ居ルヤウデアルガ、

政府ハ再保険ノ國營ヲ斷行スルコトニ依ツテ、之ヲ防止スルノ意思ハナイカトノ質問ニ對シマシテ、商工大臣ハ、生命保険ノ經營上諸種ノ不備ノ點ノアルコトハ政府モ之ヲ認メテ居ル、又保險國營ノ問題ニ付テモ

ハ國營ノ長所トスル點ヲ出來得ル限り加味スルト同時ニ、今日マテ發達シ來ツタ民營ノ長所ヲ失ハシメスコトヲ期スル所ノ最善ノ方策トシテ、之ヲ提出シタノデアル、

而シテ改正法ノ運用ハ事業ノ健全ナル發展、國營問題ノ歸趨等ニ重要ナル關係ヲ持ツノ

狀其ノ他ニ鑑ミ極メテ適切デアルト考ヘル、

メテ重大ナモノガアルカラ、官僚獨善ニ陷

ラヌヤウニ特ニ慎重ヲ期スル必要ガアルト

ミマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ此ノ際日程第九ヲ繰上

ゲ上程シ、其ノ審議ヲ進ムラレンコトヲ望

マス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

マス、又再保險ニ依ル海外拂ニ付テハ、最

近再保險「ブール」ノ結成其他ノ方法ニ依ツテ極力節約ヲ圖ツテ居ルガ爲メ、今後トモ努力シタノ御答ガアツタノデアリマス、其ノ二ハ不良會社整理ニ關スル件デア

リマシテ、即チ政府ハ本法施行後整理ノ監督或ハ命令ニ關スル規定ヲ適用シテ一時ニ

多數ノ不良會社ヲ整理スル意思ハナイカトツテ、徒ニ急激ニ多數ノ會社ヲ整理シ、保

險契約者竝ニ業界ニ不安動搖ヲ起スヤウナコトハ考ヘテ居ナイトノ御答ガアツタノデ

アリマス、以上ノ外生命保險ニ關スル弊害ノ質問ニ對シマシテ、商工大臣ハ本改正案ノ目的ハ、保險事業ノ健全ナル發達ニ依リ

保險契約者ノ保護ヲ圖ラントスルモノニアツテ、徒ニ急激ニ多數ノ會社ヲ整理シ、保

險ハ多額ノ利益ヲ舉ゲテ居ルノミナラズ、不當ノ競争其ノ他種々不備缺點ヲ生ジテ居ルガ、政府ハ生命保険ノ國營ヲ斷行スルコトニ依ツテ、是等ノ弊害ヲ一掃スル意思ハナイカ、又損害保険ノ再保険ニ依ル海外拂ハ相當多額ニ上ツテ居ルヤウデアルガ、

政府ハ再保険ノ國營ヲ斷行スルコトニ依ツテ、之ヲ防止スルノ意思ハナイカトノ質問ニ對シマシテ、商工大臣ハ、生命保険ノ經營上諸種ノ不備ノ點ノアルコトハ政府モ之ヲ認メテ居ル、又保險國營ノ問題ニ付テモハ國營ノ長所トスル點ヲ出來得ル限り加味スルト同時ニ、今日マテ發達シ來ツタ民營ノ長所ヲ失ハシメスコトヲ期スル所ノ最善ノ方策トシテ、之ヲ提出シタノデアル、

而シテ改正法ノ運用ハ事業ノ健全ナル發展、國營問題ノ歸趨等ニ重要ナル關係ヲ持ツノ

狀其ノ他ニ鑑ミ極メテ適切デアルト考ヘル、

メテ重大ナモノガアルカラ、官僚獨善ニ陷

ラヌヤウニ特ニ慎重ヲ期スル必要ガアルト

ミマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ此ノ際日程第九ヲ繰上

ゲ上程シ、其ノ審議ヲ進ムラレンコトヲ望

マス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

希望意見ヲ述べ、原案贊成ノ旨ヲ表明セラ

レタノデアリマス、而シテ採決ノ結果ハ満場一致原案通り可決致シマシテ、以上ヲ以テ御報告ト致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開

クニ御異議アリマセヌカ

第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ
求メマス——委員長野村嘉六君

第九 青年學校教育費國庫補助法案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

中學校教育費國庫補助法案（政務提

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十四年三月八日

委員長 尾木嘉一

〔野村嘉六君登壇〕

○野村嘉六君

ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付キ御報告

テ申上ケマヌ、青年學校ハ御承知ノ通り、昭和十年ニ從來ノ青年訓練所ト實業補習學

校トヲ合併致シマシテ、青年學校制度ニ改メ、日々社會ニ活動勤勞シツツアル青年ヲ

訓育スル爲ニ出來タノデアリマス、即チ勤

勞青年ニ對シ、其ノ心身ヲ鍛錬シ、知識ヲ
啓發シ、德性ヲ涵養スルト共ニ、職業及ビ

實際生活ニ必要ナル知識技能ヲ授ケ、以テ國民タレノ資質ヲ向上セシムレコトヲ目的

トスルノデアリマス、更ニ昭和十四年度ヨ

リハ、内外ノ情勢ニ鑑ミマシテ、男子ニ對シ普通科一年生約十万人ニ義務制ヲ實行ス

ルコトニナツタノデアリマス、サウシテ補

助法案ノ金額ハ、全體デ四百三十万八千九百四十圓デ、昭和二十年ニ普通科本科共全部義務制ニナルノデアリマスカラ、逐次補

助額ハ増加サレマス、青年學校ノ制度ハ普通科二年、本科五年、通ジテ七箇年、尙亦其ノ他ニ專修科、研究科モアリマス、入學資格ハ尋常小學校卒業者デ、在學年限ハ十二歳以上十九歳マデノ青年男女デ、謂ハバ居ルカト云フコトガ分ル次第デアルノアリマス（拍手）一國ノ文化興隆ハ其ノ源ガ教育ニアルト云フコトハ、千古ヲ通ジテノ鐵則デアリマス（拍手）今日我國ニ於キマシテ、十二歳以上十九歳マデノ青年男女ハ約五百万人、其ノ中青年學校ニ就學シテ居リマス、者ハ、男子一百六十二万五千二百七十六人、女子七十七万三千九百四十五人デ、合計二百三十九万九千二百二十一人デアリマス、今後義務制實施ニ依リマシテ、就學率ハ非常に増加サルルコトト思ヒマス、授業時間ハ普通科及ビ本科二年マデハ、每一箇年ヲ通ジマシテ二百十時間、三年以上ハ八百八十時間デアリマス

五分減ノ命令ハ出シタコトハナイ、又今日左様ナ考ハ持ツテ居ラストノ明白ナル答辯ヲ致シマシタ、又青年學校生徒ハ勤勞者アリマシテ、隨テ多クハ雇傭又ハ主從ノ關係デアリマス、雇傭者又ハ主人ハ自分ノ爲即チ自己ノ利益上ヨリ雇入レアルノデアルカラ、他人心ガ自然人情上現ハレマシテ、生徒ヲシテ心身共ニ苦痛ヲ感ゼシムルコトガアリハセヌカ、若シ左様デアツタナラバ、生徒ハ洵ニ慘メナモノデ、爲ニ心身ノ鍛錬、知識ノ啓發ニ大ニ妨ゲラ來シハセヌカ、當局ハ之ニ對シテドウ云フ考ヲ持ツテ居ルクト云フ質問デアリマシタ、政府ハ之ニ對シテ、雇傭者又ハ主人ニ付キテ十分諒解シテ貰フヤウ、ソレドヽ方法ヲ講ジマシテ、萬遺憾ナキヲ期スルト云フ答辯デアリマシタ、又青年學校生徒ノ就學時間ヲ、勞務制限時間内ニ算入スル意思ガアルカ否カトノ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ近日法文化スル爲、別ニ算入ニ關スル法案提出ノ考デアルト答辯致シマシタ、又青年學校義務制ニ對シマシテ、一方教育審議會ノ答申デハ、將來國民高等學校ガ義務制ニナレバ、青年學校普通科廢止スペシトノ意見ヲ答申シタガ、是デハ地方教育ノ實際ニ副ハスコトデアリマスカラ洵ニ困ル、政府ハ之ニ對シテドウ云フ方法ヲ執ルカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ適當ニ内容ヲ改善シテ善處スルトノ答辯デアリマシタ

モ今日ノ制度ハ、教育ノ首腦部トモ云フベ
キ教育機關ハ内務省所管デアル、仍テ内務
省ニ左右サルル虞ガアル、即チ地方ノ學務
部長、視學官、視學、何レモ内務省ニ依ツ
テ任免ヲサレテ居ルノデアリマス、其ノ執
務所ノ日々ノ職務ハ教育行政デハアリマス
ガ、任免權ガ内務省ニアル以上ハ、人情誰
デモ其ノ任免權ヲ有スル方ニ專心ニナルノ
ハ當然デアリマス、特ニ是等ノ首腦部ノ人
人ハ、一生ヲ教育行政ニ捧ゲルト云フ人ハ
極メテ少イ、多クハ他ノ方ニ轉任スル腰掛
的デアル、元來教育ハ一生涯一身ヲ捧ゲテコ
ソ其ノ效果ガ舉ルモノデアリマス、現在ノ
如キ腰掛的デハ、教育者ガ不安ヲ感ズルハ
勿論、認識モ十分デナイカラ、時々誤認ノ
問題ガ起ルノデアリマス、此ノ根本ヲ改ム
ルニアラザレバ、何時マデモ教權ハ確立致
シマセヌ、隨テ教育者ハ不安デアリマス、
此ノ際當局ハ斷乎トシテ制度ヲ改メ、文部
行政ヲ行フモノハ文部ノ所管ニ移シ、制度
教育共ニ一體ト爲シ、教權ヲ確立スル意思
ナキヤトノ質問ニ對シ、政府ハ機關組織ニ對
シテハ篤ト考慮スルトノ答辯デアリマシタ、
又教育ニ關スル規定ハ、從來全部勅令デ定
マツテ居ル、併シナガラ此ノ教育ニ關スル
重大問題ヲ勅令デ定スルト云フコトハ當ヲ
得ナイ、何故ナラバ、斯ル重大問題ハ總テ
國民ノ意思ヲ代表スル議會ヲ通ジテ、サウシ
ニ提案シテ、總テハ法律化スルガ宜シクナ
イカト云フノガ、全委員擧ゲテノ質問デア
リマシタ、所ガ之ニ對シテ政府ハ、從來通
教育ニ關スル色々ノ規定ガ必要ナラバ、議會
ニ勅令デヤツテモ差支ナイト思フ旨ノ答辯

ガアリマシタ、又世界ニ冠タル我ガ國體ノ本義ヲ學生生徒ニ知ラシムルニハ、十分國史研究ノ知識ヲ授ケネバナラヌ、然ルニ今日各學校ニ於テ國史教授ノ時間ヲ見ルニ、是他ノ科目時間ニ比シテ著シク少イノデ、是デハ到底學生生徒ヲシテ十分國史ノ知識ヲ得セシムルコトハ出來マセヌ、國史ヲ知ラズシテ祖國愛ヲ説クノハ、丁度木ノ根ヲ切ツテ其ノ枝ヲ茂ラサウトスルト同様デアリマス、今日學生ニシテ共產主義ニ陥ル者ガアル、是等ノ原因ヲ調べテ見ルニ、多クハ國史ノ知識ガ乏シク、サウシテ一面ニハ「マルクス」等ノ國體ニ反スル知識ヲ得テ居ルカラデアル、政府ハ此ノ點ニ鑑ミテ將來國史ニ重キヲ置ク意思デアルカドウデアルカ、此ノ質問ニ對シテ當局大臣ハ勿論同感デアル、サウンシテ他ノ科目トノ釣合ヲ圖リ適當ニ改正スルト言致シタノデアリマス、又我國ハ御承知ノ通り祖先崇拜ノ國デ、祖先崇拜ハ家族制度ノ確立カラ出來テ居リマス、外國ニテハ家族制度ハナイ、個人主義デアル、即チ日本ニ於テハ祖先ヲ祀ル爲ニ親族姻族共同シテ一家ヲ成シ、祖先崇拜ノ觀念ヲ涵養シ、淳風美俗ヲ培ヒツツ來ツタノデアリマス、古ノ大寶令、又養老令等ノ規定ヲ見テモ此ノ事實ガ明デアリマス、所ガ明治三十一年民法、商法等制定サルニ當リマシテ、親族、相續等ノ規定ニ對シテ、古來ノ淳風美俗ニ關スル規定ヲ入ルコトヲ怠ツタノデアリマス、是ガ爲ニ其ノ後識者學者ノ中ニ議論ガアツテ、大正八年ニ三十一年ニ出來タ親族相續法ヲ改正シ、サウシテ日本ノ淳風美俗ヲ入レナケレバナラヌト云フノデ改正ヲ企テマシテ、昭和二年改正スペキ要綱三十四項ヲ設ケテ成文化スル

コトニナツタノデアリマス、併シナガラ其ノ後數十年經チマスケレドモ、未ダニ政府ガ之ヲ實行致シマセヌ、故ニ此ノ際祖先崇拜ノ觀念ヲ益々涵養スル必要上、是非トモ此ノ改正ヲ法文化シテ貰ハナケレバナラヌガ、當局ハ如何ニ考ヘルカト云フ質問ニ對シテハ、是モ同感デアル、斯ウ云フ答辯デアツタノデアリマス、ソレカラ教育ノ根本ニ對シテノ質問ニ對シテハ、政府ハ教育勅語ノ御聖旨ヲ奉戴シ、教育竝ニ思想全般ニ亘リ學生生徒ヲ徹底的薰育スル旨ヲ明言サレマシタ

委員會ヲ開クコト十二回、質問ヲ終リマシテ討論ニ入りマシタ、民政黨ノ佐藤與一君ヨリ
一、國庫補助金ハ義務教育本質ニ鑑ミ國庫負擔金トシ大ニ増額ヲ圖ルコト
一、教員素質向上ヲ圖ル爲メ教員養成施設ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ教員待遇ノ向上ヲ爲スコト
一、獨立校舍ノ建築設備改善ヲ促進スル爲メ國庫補助金ノ交付ノ途ヲ開クト共ニ起債其他ヲ容易ナラシムル爲メ最善ノ努力ヲ拂フコト

一、大都市ニ於ケル青年學校不振ノ實情ニ鑑ミ其振興ノ爲メ特別ノ考慮ヲ拂フコト

一、青年學校ノ義務制實施ニ伴ヒ青年團ノ振興ヲ期スル爲メ法制ノ整備補助金増額等適當ノ處置ヲ講ズルコト

一、教育行政機構ヲ刷新シ教育ノ健全ナル發達ヲ期スルコト

政友會ノ會和義式君ヨリ
一、青年指導ノ根本國策ヲ樹立スペシ
一、速ニ青年團令ヲ制定スペシ

一、速ニ青年學校義務教育費負擔法ヲ議會ニ提出スペシ
一、青年學校教員並指導員ノ待遇改善ヲ實現スペシ

第一控室ノ椎尾辨匡君ヨリ

一、青年義務制强行ヲ機トシ指導目標ヲ明確ニシテ青年志氣ノ振作ニ努ムベシ

一、青年學校青年團員ト同期ノ他ノ學生生徒等ト横ノ聯絡ニヨリ青年協同ノ途ヲ開カレタキコト

社會大眾黨ノ河合義一君ヨリ

一、政府ハ將來青年學校經費ノ全額ヲ國庫負擔トスベシ

一、政府ハ青年學校ノ義務制ヲ完成スルト共ニ教育ノ内容ヲ完備シテ青年學校ヲ以テ國民教育ノ中樞トスベシ

一、政府ハ現下壯丁ノ體位低下ノ事實ニ鑑ミ青年學校ニ於テハ特ニ生徒ノ榮養ニ留意シテ體位ノ向上ヲ計ルベシ

一、政府ハ現下壯丁ノ體位低下ノ事實ニ鑑ミ青年學校ニ於テハ特ニ生徒ノ榮養ニ留意シテ體位ノ向上ヲ計ルベシ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ日程第十及ビ第十一ノ兩案ヲ繰上ゲ一括上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第十、臺灣事業公債法中改正法律案、

日程第十一、臺灣米穀移出管理特別會計法

案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長菊池良一君

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシクニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

青年學校教育費國庫補助法案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十四年三月

衆議院議長小山松壽殿 委員長 菊池良

報告書

提出——臺灣米穀移出管理特別會計法案（政府

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候比段及報言矣也

昭和十四年三月八日

委員長 菊池 良
田中 零發

〔菊池良一君登壇〕

於ケル審議ノ經過及び結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ二月二十一日ヨリ三月八日マデ、十回ニ亘リマシテ質疑應答ヲ重ね、討論ニ入り、討議ノ結果全員一致可決致シタ次第デゴザイマス

第一二、臺灣米穀移出管理特別會計法案

ギマシテ、主ナル質疑應答云御報告申上
マス、一、本管理案ハ臺灣ノ統治上ニ影

ヲ及ボスコトヘナイカ、二、本管理案ヲ

施スルコトニ依リ產米ヲ減少シ、我國全
之量同額、寺ニ哉寺ニハ、一ノ全量文

ノ食糧問題 特ニ戰時ニ於ケル食糧政ニ枝障ヲ來スコトハナイカ、三、本管理

八現下ノ食糧問題ノ重要性ニ鑑ミ、内外

ヲ通ズル米穀ノ生産確保上ニ支障ヲ及ボ

コトハナイカ三四 本管理案ハ臺灣農家

、本管理案ヲ計畫スルニ當リ、臺灣島内ニ

國內ノ消費ノ增加、並ニ満洲、支那等ニ對スル供給增加ノ爲メ、今後益々其ノ生産ヲ增加セネバナラズ、他面無水「アルコール」ノ原料トシテモ相當甘蔗ノ増産ヲ必要トシマスノデ、將來米價ガ下ツテモ、所要蔗作面積確保ノ爲ニハ、之ニ伴ヒ蔗價ヲ下ダル中ニアリマシテ、之ニ依リ甘蔗ノ作付コトハ困難ナ事情ニアリマス、而シテ糖業ニ關シマシテハ、別ニ糖業令ヲ立案調整ヲ爲スト共ニ、甘蔗買收價格ノ公正ヲ期シ、管理案ノ實施ニ依ル反射的利益ハ、本令ノ活用ニ依ツテ十分規正スルコトニテ、關係上、第一期作ガ凶作デアリマシタ、七、凶作ノ場合特別會計ニ損失ヲ及ボサナイカトノ點ニ付キマシテハ、臺灣ハ年二回作デアルツテ居ルトノコトデアリマシタ、七、凶作期作ガ豐作デ之ヲ補フト云フヤウナ風ニナツテ、凶作ニ因リ特別會計ニ損失ヲ與ヘルヤハ此ノ會計ハ相當大額ノ借入金ガ出來ルヤウニナツテ居リマスノデ、間違ナク行クトト思ツテ居ルトノコトデアリマシタ、

八、管理案實施ニ伴フ米其ノ他國家有用作物ノ增産ニ對應スル耕地ノ餘裕ニ關スル問題付キマシテハ、管理事業ノ剩餘金ニ依リ、將來十箇年間ニ二十萬餘甲ニ瓦リ土地改良、干拓事業ヲ行ヒ、耕地ノ改良ヲ行フト共ニ、新ニ十二万數千甲ノ水田ヲ擴張スルコトニナツテ居リマスノデ、計畫ノ米其ノ他各種有用作物ノ栽培ハ可能デアリ、且ツ右工事ハ總督府ノ土木當局ニ於テ既ニ調查計畫サレテ居ルモノ内、勞力其ノ他ノ關係上十

モ、又作付反別ノ増加、甲當リ收量ノ増産ナド、内地ノ需要ニ支障ナキヲ期スベキノデアルト存ジマス、内地ガ凶作ノ場合ニ外地ヨリ之ヲ補充スルノ已ムナキニ至リマシタ際、臺灣米ハ農產物増産計畫ノ爲ニ自然増加ガ抑制セラレ、内地需要ニ不足ヲ來スガ如キ場合ガアツタ致シマスルナラバ、由々シキ大問題デアリマス、仍テ内地ヲ通ズル米ノ需給計畫ニ支障ヲ來スガ如キコトナキヤウ深甚ノ考慮ヲ拂ハネバナリマセヌ、仍テ此ノ希望ヲ附スル次第デアリマス

第二ノ希望デアリマス、甘蔗ハ臺灣ノ農作物中米ニ續イテ居ル重要作物デアリマス、仍テ一方ニ於テハ米、一方ニ於テハ甘蔗ト云フ、此ノ二大對抗作物トシテ助長發展ヲ期セナケレバナラヌノデアリマス、斯クスル上ニ於テ糖業令ヲ定メルコトハ必然的ナコトデアリマス、臺灣總督府ニ於キマシテモ目下糖業令ヲ立案中ト聞イテ居リマス、仍テ米穀管理實施ト並行シテ糖業令ヲ發布セラレ、甘蔗ノ栽培區域、作付面積ノ點、及ビ買上價格ヲ許可制ニスル等、糖業ノ統制強化ト、糖業ト他ノ有用作物トノ調整ヲ圖リ、利益ノ均衡ヲ期スペキモノナリトノ見地ヨリ致シマシテ、此ノ希望條項ヲ附スル次第デアリマス

第三ノ希望ニ移リマス、臺灣總督府ノ計畫ニ依リマスト、米穀ノ買入ハ作付以前ニ決定シテ、其ノ價格ヲ發表スルコトニナツテ居リマス、右買入ノ價格ハ生産費、物價、其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ、適正ナル米價タラシメ、之ニ依ツテ農家經濟ノ安定ヲ期セントスルト共ニ、各種有用作物ノ調和的增産ヲ圖ラントシ、且ツ賣渡價格ト買入

價格トノ差額ヨリ經費ヲ控除シタル收益ハ
舉ゲテ島内ニ還元シ、農業ノ調整開發及ビ
助長ノ經費ニ充テルノデアリマス、ソコデ
買上價格ハ作付以前ニ發表致シ、其ノ發表
シタル價格ニ依ツテ買上ヲ致シマシテ、之
ヲ内地ニ於テ賣却シテ、其ノ買上價格ト賣
渡價格トノ差額ヨリ經費ヲ引イタ残リ、其
ノ差益ガ農業調整開發及ビ助長ノ經費ニ當
ルコトナルノデアリマスガ、買上價格ト
賣渡價格ノ差ヲ二圓ト見積ツテ種々ノ計畫
ガ立テラレテ居リマス、聞ク所ニ依リマス
トニ圓ハ最初ノ年ガ二圓デアツテ、順次四
圓程度マデ取ルノダト云フコトモアルカノ
ヤウニ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、市場
ニ於キマシテ色々ナ物ガ賣買セラレマス場
合、物價ハ一定不動ノモノデハアリマセヌ、
常ニ高低アルコトハ何人モ首肯スル所デア
リマス、仍テ收得金ニ限度ヲ附スルコトガ
必要デアラウト存ジマスノデ、二圓ノ程度
ヲ超過セザルコトヲ希望條項中ニ加ヘタ次
第デアリマス。

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第一二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

臺灣事業公債法中改正法律案 第二讀會（確定議）

臺灣米穀移出管理特別會計法案 第二讀會（確定議）

○議長（小山松壽君） 別ニ御發議モアリマセヌ、第二讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）

○服部崎市君 日程第一及ビ第二ハ後廻シトセラレンコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一及ビ第二ハ後廻シト致シマス——日程第三及ビ第四ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第三、昭和十三年法律第六十四號中改正法律案、日程第四、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——松村大藏政務次官

第三 昭和十三年法律第六十四號中改
正法律案（兌換銀行券ノ保證發行限
度ノ臨時擴張ニ關スル件）（政府提出）
第一讀會

第四 朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證
發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案
（政府提出） 第一讀會

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案

昭和十三年法律第六十四號中左ノ通改正
ス

「十七億圓」ヲ「二十二億圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限
度ノ臨時擴張ニ關スル法律案

朝鮮銀行法第二十二條第二項中一億圓ト
アルハ當分ノ内之ヲ一億六千萬圓トス

臺灣銀行法第九條第二項中五千萬圓トア
ルハ當分ノ内之ヲ八千萬圓トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ支那事變終了後一年内ニ之ヲ廢止
スルモノトス

（政府委員松村光三君登壇）

○政府委員（松村光三君）只今議題トナリ
マシタ昭和十三年法律第六十四號中改正法
律案竝ニ朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發
行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案ニ付テ說
明致シマス

先づ兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴
張ニ關スル法律中改正法律案ニ付テ說明致
シマス、本法律案ハ支那事變ノ進展ニ伴ヒマ
シテ、兌換銀行券發行高ノ尙ホ增加ヲ來サ

シントスル趨勢ニ對處スル爲、曩ニ臨時ニ擴張セラレマシタ兌換銀行券ノ保證發行限度ヲ更ニ五億圓擴張シテ、之ヲ二十二億圓ト爲サントスルモノデアリマス、昨年四月兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律ガ施行セラレタノデアリマスガ、其ノ後ニ於ケル經過ヲ見マスルノニ、事變ノ進展ト共ニ、一般經濟取引ノ膨脹ニ依リマシテ、兌換銀行券ノ發行高モ增加ヲ來シテ居リマスノニ加ヘ、昨年七月日本銀行正貨準備ヨリ三億圓ヲ割キ、新ニ外國爲替基金ヲ設定致シタ結果トシテ、右臨時擴張ノ效果ハ同金額ダケ減殺サレタ關係モアリマシテ、昨年十一月以降ニハ屢々制限外發行ヲ見ルニ至ツタノデアリマス、而シテ今後ニ於キマシテモ、事變ニ關聯シテ諸般ノ經濟活動ハ依然伸張ヲ續ケ、之ニ伴ヒマシテ兌換銀行券ノ發行高モ更ニ增加スルモノト考ヘラレマスノデ、此ノ際保證發行限度ヲ臨時ニ尙ホ相當擴張スルヲ適當ト認メマシテ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス

次ニ朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案ニ付テ説明致シマス、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ハ、曩ニ昭和十二年九月、之ヲソレバ一億圓及ビ五千万圓ニ擴張致シタノデアリマスガ、其ノ後支那事變ニ進展ニ因リ、朝鮮及び臺灣ニ於ケル一般經濟取引ハ急激ナル增大ヲ來シ、之ニ伴ツテ朝鮮銀行券及ビ臺灣銀行券ノ發行高ハ顯著ナル增加ヲ示スニ至ツタノデアリマス、而シテ今後ニ於テモ支那事變ニ關聯シテ朝鮮及ビ臺灣ニ於ケル通貨ノ需要量ハ更ニ増大シ、延イテハ朝鮮銀行券及ビ臺灣銀行券ノ發行高モ一層増加ヲ來スモノト認メラレルノデ

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現在ノ儘ニ致シテ置キマストキハ、朝鮮及ビ臺灣ニ於テ經濟取引上必要トセラレル通貨ヲ、圓滑ニ供給致シマスル上ニ、支障ヲ生ズルコトナキヲ保シ難イノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスノデ、今回支那事變ニ關聯スル臨時措置トシテ、朝鮮銀行券及ビ臺灣銀行券ノ保證發行限度ヲ、ソレバ六千万圓及ビ三千万圓擴張スルヲ適當ト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シタノデアリマス、以上兩件ニ付キマシテ御審議ノ上速ニ協贊アランコトヲ望ミマス(拍手)○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

○服部崎市君 日程第三及ビ第四ノ兩案ヲ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレントコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第五、船舶建造融資補給及損失補償法案ノ第一讀會ヲ開キマス——鹽野遞信大臣

第五 船舶建造融資補給及損失補償法案(政府提出) 第一讀會

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

第一條 政府ハ海運業ノ振興ヲ圖ル爲必

要アリト認ムルトキハ船舶建造資金ノ融通ヲ爲ス金融機關ニ對シ補給金ヲ支給シ且融通ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 前條ノ契約ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ昭和十四年度以降十年度間トス

第三條 第一條ノ船舶建造資金及金融機關ノ範圍、補給金支給ノ限度竝ニ船舶建造資金ノ融通ヲ受クルコトヲ得ベキ者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 政府ハ第一條ノ契約ヲ爲サントスルトキハ金融機關ヲシテ船舶建造資金ノ融通ニ付左ノ各號ニ依ラシムルコトヲ要ス

一 融通資金ノ償還方法ハ十五年以内ノ年賦償還ニ依ルコト但シ其ノ期間内ニ於テ二年以内ノ据置期間ヲ定メ得ルコト

二 融通資金ニ依リテ建造セラルル船舶ニ第一順位ノ抵當權ヲ設定スルコト但シ船舶建造中ニ在リテハ之ニ代ヘテ一時他ノ船舶其ノ他ノ物件ヲ擔保ト爲シ得ルコト

三 資金融通ノ限度ハ建造セラルル船舶ノ擔保價格ヲ超エザルコト但シ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ擔保不足分ニ付他ノ船舶其ノ他ノ物件ヲ擔保ト爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

四 船舶ノ擔保價格ハ當該船舶ノ價格ノ三分ノ二又ハ保險金額ノ五分ノ四ノ中其ノ低キモノニ依ルコト

五 貸付利率ハ勅令ノ定ムル率ニ依ルコト

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣鹽野季彥君登壇〕

○國務大臣(鹽野季彥君) 只今議題トナリ

提出理由ヲ簡單ニ御説明申上ゲマス

近年我國海運ノ顯著ナル發展ニ伴ヒマシ

金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ政府之ヲ定ム

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

トヲ要ス

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂ベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ契約ハニ基キ支給スペキ補給

アリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現額ヲ超エザル範圍内ニ於

十一億四千三百万圓、海軍臨時軍事費八億一千二百万圓、豫備費六億五千万圓ト相成ツテ居リマス、本歲出豫算ハ、事變ノ推移其ノ他事變ニ關聯シテ緊切ナル諸施設ヲ爲スガ爲ニ、必要ナル經費ヲ計上致シタモノデアルトノ政府ノ説明デアツタノデアリマス次ニ歳出豫算ニ付キマシテハ、其ノ財源ノ大部分ハ公債ニ依ルモノデアリマシテ、即チ公債及繰替借入金三十九億二千四百餘万圓デアリマス、公債金以外ノ歲入ハ六億八千九拾餘万圓、其ノ内一般會計ヨリノ繰入金ガ五億三千五百十餘万圓、各特別會計ヨリノ繰入金ガ一億二千六百六十餘万圓、其ノ他北支事件費財源受入、軍事費獻納金、及ビ臨時軍事費特別會計ニ屬スル物品ノ拂下代等デアルトノ政府ノ説明デアツタノデアリマス

本追加豫算案ハ三月二日夕刻本院ニ提出セラレタノデアリマスガ、豫算委員會ハ翌三月三日直チニ開會致シマシテ、政府ノ説明ヲ求メ、審査ヲ開始致シ、爾來會議ヲ開キマスコト五回、本日午後三時審査ヲ終了致シタノデアリマス、今其ノ審査ニ當ツテノ質疑應答ヲ概要ヲ申上ゲマスレバ、其ノ質疑ノ第一點ハ、臨時軍事費ガ昨年ニ比シテ大差ガナイデハナイカ、作戰兵力維持ノ經費モ、昨年ノ支出ト大差ナシトノ説明デアルガ、併シ昨年ハ徐州ノ大會戰ト云ヒ、漢口ノ大政略戰ト云ヒ、アノ大消耗ヲ要スル大會戰ガアツタノデアルガ、ソレニ引換ヘ今年ハ左様ナ金ノ掛ル大會戰ハナイ筈デアルニ、支出ニ大差ナシトハ如何ナル理由ニ

大臣ヨリ、大會戰ハナイガ、併シ占領地ノ治安確保ノ爲相當ノ戰鬪ヲ繼續シテ居ル、隨テ其ノ消耗累積モ大デアル、又十三年度豫算ハ、實ハ實際ニ即シテ少カツタ爲ニ非常ニ苦心シ、蓄積準備モ相當使ツタ等ノ關係ガアルガ、將來消耗ガ一層減レバ、支出モ減少スル結合デアルトノ答辯デアリマシタ、質疑ノ第一點ハ、内地ノ常備師團ノ相當ノ部分ヲ滿支ノ間ニ移駐セシムル考ハナカ、又長期建設ニ對應スル國內經濟力充實ノ點カラ、新銳ナル現役兵ヲ現地ニ送ツテ、一家ノ主人トモナルベキ豫備兵ノ人ヲ成ベク國內ニ留メル考ハナイカトノ間ニ對シ、板垣陸軍大臣ハ、第一ノ點ハ今後ノ傾向カラスレバ、大體其ノヤウナコトニナルト思フ、又第二ノ點ハ、是ハ現ニ長ク彼地ニ居ル者及ビ特ニ年ヲ取ツタ兵隊カラ、遂次新銳ナル部隊、若クハ兵員ニ交代セシムルヤウ實施シテ居ルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ質疑ノ第三點ハ、帝國不動ノ方針ハ既ニ確定シ、特殊結合地帶ノ爲、或ハ又治安助成ノ爲、或ハ更ニ共同防共目的達成ノ爲、相當廣範圍ノ地域ニ駐兵ヲ必要トルコトト思フガ、其ノ地域ノ範圍ハ如何、又其ノ駐兵ニ對シテハ速ニ兵舍等恆久的設備ヲ爲スペキデハナイカトノ間ニ對シ、政府ハ駐兵地域ハマダ將來ノ動キモアルコト故テ居ルトノ答辯デアリマシタ、質疑ノ第四點ハ、此ノ大軍事豫算ノ消化ノ角度、竝ニ東亞經濟協同體系内ニ於ケル資材獨立性ノ觀點ヨリスル生產擴充ノ問題デアリマシタ、生產擴充ガ果シテ計畫目標通リニ

完成スルト云フ、定ニ憂慮ニ堪ヘナイトノ
意味ノ質問ガアリマシタ、之ニ對シ政府ハ、
一時的現象トシテハ左様ナコトモアツタ
思フガ、今後ハ綜合計畫ノ下ニ萬遗漏ナキ
ヲ期シ、產業全體トシテ均勢ヲ取ツテ、翻
翩ノナイヤウニ努スルトノ答辯デアリマシ
タ、又一方抑、生産擴充、物動計畫ニ對シ、
國民ガ不安ヲ抱クノハ政府ノ祕密主義ニ禍
ヒサルルノデアル、政府ハ思切ツテ是等ノ
計畫内容ヲ明ニシ、一ハ以テ國民ト共ニ協
力シテ目標ニ邁進スルコトトシ、他ハ以テ
如何ニ日本ノ經濟力内容ガ強力デアリ、且
ツ大ナル將來性ガアルカヲ世界ニ知ラシム
メ、以テ不當ノ輕侮ヲ避クベキデアルトノ
強キ委員ノ質疑ニ對シ、政府ハ從來ノ方針
ヲ一新シテ、左ノ如ク生産擴充計畫ノ内容
ヲ數量デナク、割合ヲ以テ示サレタノデア
リマス、即チ其ノ内容ハ

尙未昭和十六年度末ニ於テ日滿支ヲ通シ大體自給自足シ得ル品目ハ鐵鋼、石炭、輕金屬、亞鉛、曹達、硫安、「パルプ」、鐵道車輛、船舶、自動車、以上デアリマスルガ、政府充實現ノ曉ニ於キマシテハ、我ガ經濟力竝ニ國防力ハ全ク面目ヲ一新スルトノ附言ヲセラレタノデアリマス、質疑ノ第五點ハ、豫算ヲ中心トシテノ物價問題デアリマス、物價ガ騰勢ニ移ツテ、ドシ～諸物價ガ奔騰スル場合アリト致シマスレバ、豫算モ實行出來ズ、國防計畫モ畫餅ニ等シイ、昭和十二年ノ陸海軍ノ國防計畫ヲ前提トシテ、物價ハ二割近ク奔騰シタガ、然ルニ一昨年末ノ大豫算ノ使用ニ拘ラズ、其ノ騰勢ヲ一割ニ止メ得タト云フコトハ、兎モ角モ近來ノ物價抑制諸政策ノ賜デアル、併シナガラ近來ノ諸情勢ハ、決シテ從來ノ手並ヲ以テシテハ安心ガ出來ナイ、而モ此ノ重大ナル物價問題ヲ、獨リ其ノ責任ヲ物價委員會ニノミ委セントスルガ如キモ、政府自ラ今少シク其ノ責任ヲ痛感スベキデハナイカトノ間ニ對シ、政府ハ物價委員會ヲ強化シテ、眞ニ適切ナル對策ヲ講究スルト共ニ、購買力吸收ニ付テハ、公債及ビ貯蓄獎勵ノ外増稅案ニ依リ、即チ所得ノ增加シツツアル方面ニ對スル直接負擔ノ増加、及ビ間接的方法トシテハ、物品稅其ノ他ニ依ツテ物價問題ノ一面ヲ正シ、他面ニ於テハ物資ノ需給關係ヲ緩和シテ、極力其ノ弊害ヲ除去セントスル考デアルト云フ意味ノ答辯ガアツタハデアリマス、質疑ノ第六點ハ、勞働力ノ確保ノ問題、軍工廠ヨリ民間工場ノ高率賃銀是正ノ問題、軍需製造品單價引下、及ビ其ノ原料ノ價格引下、統制等ノ問題デアリ

マシタガ、之ニ對シマシテ政府ハ、現在ノ所軍工場ニ於テハ政府ハ勞働力ノ大シタ不思ハ感ジテ居ラヌ、賃銀ハ官民通シテ均勢ヲ保テタイガ、具體案ハ目下考究中デアル、價格ニ付テハ特ニ注意ヲ拂ヒタイ等ノ答辯ガアリマシタ、其ノ他蔣政權壞滅ノ問題、防共協定強化ノ問題、政府部内意見統一ノ問題等ガアリマシタガ、詳細ノコトハ速記録ニ依ツテ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス之ヲ要シマスルニ質疑ヲ通ジテ現ハレマシタ所ノ委員諸君ノ總意ハ、正ニ新段階ニ入ツタ事變ノ處理竝ニ建設ニ對シマシテ、本豫算ヲ通ジテ誤リナキヲ期サシメタイ、而シテ以テ眞ニ東亞ニ對スル我ガ民族的ノ大使命ヲ達成セシメタイトノ熱誠ヲ現ハレデアツタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府モ亦極メテ眞摯ノ態度ヲ以テ所信ノ披瀝ニ努メラレタノデアリマス、總會モ終リニ近付キマシタ昨八日午後ニ至リマンシテ、政府ハ各委員ノ質疑ノ一部ニ對シ、屢々適當ノ機會ニ於テ答辯スルト申シテ居リマシタソレ等ノ諸點ニ關シ、政府ヨリ祕密會ニ於テ答辯シタイトノ申出ガアツタノデアリマス、仍テ昨日午後四時ヨリ八時マデヲ祕密會ト致シマシテ、政府ノ答辯ヲ聽キ、更ニソレニ對シ原口君及ビ山道君ノ質疑ガアリマシタガ、遺憾ナガラ祕密會ニ於ケル經過ヲ申上ガル自由ヲ有シナインデアリマス、斯クテ委員會ハ本日午前中質疑ヲ終了致シ、午後二時半臨時軍事費豫算追加案ヲ、他ノ共ニ議題トナツテ居リマシタ案件ト切離シ討議ニ付シ、此ノ討論ニ於キマシテ立憲民政黨ノ中山福慶君、立憲政友會ノ川島正次郎君、第一議員俱樂部ノ永山忠則君、

○議長(小山松壽君) 採決致シマス、本案ノ委員長報告ハ可決デアリマス、本案ヲ委員長報告ノ通り決スルニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求ヌマス

(總員起立)

○議長(小山松壽君) 起立總員
(拍手起立)

○議長(小山松壽君) 仍テ本案ハ全會一致可決確定致シマシタ

○服部崎市君 疊ニ後廻シト爲シタル日程第一ヲ此ノ際上程セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認ヌマス、日程第一、映畫法案、第一讀會ヲ開キマス——内務大臣木戸幸一君

第一 漢畫法案(政府提出) 第一讀會
映畫法
映畫法案

第一條 本法ハ國民文化ノ進展ニ資スル爲映畫ノ質的向上ヲ促シ映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 映畫ノ製作又ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ

第一讀會映畫法案(政府提出)

依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケベシ
前項ニ規定スル映畫製作業及映畫配給業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テ其ノ業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ之ヲ同項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
第四條 主務大臣ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケ映畫ノ製作ノ業ヲ爲ス者(映畫製作業者)又ハ同項ノ許可ヲ受ケ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者(映畫配給業者)本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ業務ノ停止若ハ制限又ハ其ノ許可ヲ取消ヲ爲スコトヲ得
第五條 映畫製作業者ノ映畫ノ製作ニ關シ業トシテ主務大臣ノ指定スル種類ノ業務ニ從事セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録ヲ受ケベシ但シ十四歳未満ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ
第六條 主務大臣ハ前條ノ登録ヲ受ケタル者其ノ品位ヲ失墜スペキ行爲ヲ爲シタルトキ其ノ他同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事スルヲ適當ナラズト認メタルトキハ其ノ業務ノ停止又ハ其ノ登録ノ取消ヲ爲スコトヲ得
第七條 映畫製作業者ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外第五條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケザル者ヲ同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得ズ前條ノ規定ニ依ル業務停止中ノ者ニ付亦同ジ
第八條 行政官廳ハ危害豫防、衛生其ノ他公益保護上必要アリト認ムルトキハ

二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行ノ際現ニ業トシテ第五條ノ規定
ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事スル者ハ本
法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ同條ノ登録ヲ
受ケズシテ引續キ業トシテ其ノ業務ニ從
事スルコトヲ得

第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

(國務大臣侯爵木戸幸一君登壇)

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 只今議題ト
ナリマシタ映畫法案ニ付キマシテ提出ノ理
由ヲ御説明申上ダマス

我國ニ映畫ガ初メテ輸入セラレマシテカラ
四十年ノ日時ヲ經過シテ居リマスルガ、
其ノ間映畫ノ普及發達ハ寔ニ著シキモノガ
アリマス、國民娛樂トシテ最モ重要ナル地
位ヲ占ムルニ至リマシタノミナズ、最近
ニ於キマシテハ教化、宣傳、報道等ノ方面
ニ進ンデ國民藝術トシテ新ナル分野ヲ開拓
セントスル機運ニアルノデアリマシテ、映
畫ノ有スル國家的任務ハ愈、重大トナツテ
來タノデアリマス、然ルニ從來我國ノ映畫
ニ對スル政策ハ、遺憾ナガラ概々消極的範
圍ヲ出ナイ有様アリマシテ、之ヲ積極的
ニ利用、助長スル方策ニ缺ケテ居リマシタ
爲、我國ノ映畫事業ニハ、其ノ製作、配給、
上映ノ各部門ニ瓦リ幾多改善ヲ要スベキモ
イ状況デアリマシテ、映畫ヲ通ジ國民文化
ノ進展ヲ期スルガ爲ニハ、速ニ是等ノ點ニ
付テ適切ナル方策ヲ講ズルコトヲ必要トス
ル次第アリマス、斯様ナ實情ニ鑑ミ、既
ニ數年前ヨリ屢々各方面カラ政府ニ對シ、
急速ニ映畫國策ヲ樹立實行スベキコトヲ要

望セラレ、又貴衆兩院ニ於キマシテモ、其ノ趣旨ノ建議、請願等ガアツタノデアリマ
シテ、内務省ニ於キマシテハ、豫テヨリ文
部省、厚生省ト協議ヲ重ネマシタ結果、茲ニ
本案ヲ提出スルニ至ツタ次第アリマス
本案ヲ内容中主ナル事項ヲ申上ダマスレ
バ、先づ映畫製作業及ビ映畫配給業ノ濫立
ヲ防止シ、其ノ内容ノ充實ヲ圖ル爲之ヲ許
可事業トシ、映畫ノ質的向上ヲ期スル爲映
畫製作從事者ノ登録制度ヲ實施シ、危害豫
防、衛生、教育、其ノ他公益保護ノ必要ヨ
リ、映畫ノ製作又ハ上映ニ付キ制限ヲ爲シ、
國民文化ノ向上ニ資スル映畫ノ出現ヲ促ス
爲選獎ノ制度ヲ設ケ、外國映畫ノ及ボス影
響ヲ是正スル爲其ノ配給並ニ上映ニ付制限
ヲ爲シ、國民教育又ハ啓發宣傳ノ目的ヲ達
スル爲映畫ノ上映ヲ命ジ、公益上ノ必要ニ
依リ映畫製作數量ノ制限、映畫配給ノ調整
等ニ關スル必要ナル命令ヲ發シ得ルコトト
シ、又本法施行ニ關スル重要事項ニ關スル
諸問機關トシテ映畫委員會ヲ設置スルコト
致シマスル等、映畫ノ質的向上ヲ促シ、
映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖リ、以テ國民
文化ノ進展ニ資スル爲、必要ト認メラレマ
スル事項ヲ規定致シタノデアリマスガ、尙
ホ詳細ノ點ニ關シマシテハ、委員會ニ於テ
御説明申上ゲタイト存ジマス、何卒十分御
審議ノ上、本案ニ對シ速ニ御協賛アランコ
トヲ切望スル次第アリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマ
ス、順次之ヲ許シマス——村松久義君
(村松久義君登壇)
ノ提案理由ノ説明ニアリマスル如クニ、映
畫國策ヲ樹立實行スベキコトヲ要

畫ガ我國ニ輸入セラレマシテヨリ、既ニ
四十年ヲ經過致シテ居ルノデアリマス、然
ルニ此ノ間有識階級ヨリハ蔑視虐待ヲセラ
レツツモ、兒童ノ優待ヲ受ケツツ次第ニ隆
盛ヲ見ルニ至リ、遂ニ父兄ノ觀客ヲモ誘致
スルニ至リマシテ、今日ノ非常ナル盛況ヲ
見ルニ至ツタノデハアリマスケレドモ、今
日ニ至リマシテモ、尙ホ映畫蔑視ノ風潮ノ
絶エザルコトハ、洵ニ奇異ノ感ニ打タレザ
ルヲ得ヌノデアリマス、此ノ事ハ、日本ノ
映畫ノ技術ノ問題ハ姑ク措クト致シマシテ、
固ヨリ内容ノ發展ガ十分デナカツタト云フ
コトニ一ツノ原因ハアリマスルケレドモ、
其ノ根本ニ於キマシテハ、有識階級ガ映
畫ノ真價ヲ究メズ、其ノ文化的、國家的使命
ヲ認識シ、映畫ノ向上發展ノ爲ニ助長援助
スル代リニ、却テ之ヲ壓迫シ、或ハ少クト
モ棄テ顧ミザルガ如キコトガ、其ノ原因
ノ大ナルモノヲ成シテ居ルト言ハナケレバ
マシテ、此ノ意味ニ於テハ私ハ欣幸ニ堪ヘ
ナラヌノデアリマス、漸ク本日ニ至ツテ此
ノ映畫法案ノ上程ヲ見ルニ至ツタノデアリ
マシテハアリマスルガ、其ノ法案制定ノ
理由ノ堂々タルニ引替ヘテ、内容ノ局部末
梢のナル法案ノ提出ヲ見マシタコトハ、恰
モ提案ノ理由ノ制定者ト、法案内容ノ作製
者トガ別世界ノ人ニ屬スルガ如キ印象ヲ與
ヘルノデアリマス(拍手)詳細ニ茲ニ讀上
マスコトハ省略致シマスガ、提案ノ理由ニ
ハ、映畫ノ國家的任務ハ愈、重要性ヲ加ヘ
テ來テ居ルト云フ

ハ映畫ニ對シテ那邊マデ認識ヲセラレテ居
ルカ、又映畫ノ文化的、國家的使命ニ對シ
テ、如何ナル認識ヲ持ツテ立案セラレタル
モノデアルカヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリ
マス、私ノ映畫ニ對シテ理解致シテ居リマ
スルコトヲ簡單ニ申上ダマスレバ、斯様ニ
ナルノデアリマス
十九世紀ニ生レテ二十世紀ノ人類ニ引繼
ガレタル所ノ思想、感情ノ新シイ表現機関
ガ實ニ映畫デアツテ、言語、繪畫、文字等
ノ遠ク企テ及ブコトノ出來ナイ新天地ヲ形
成致シテ居ルモノガ映畫デアルト考ヘテ居
リマスルガ、若シ國家ガ之ヲ眞ニ支配シ利
用シテ行クコトノ方法如何ニ依リマシテ
ハ、其ノ人生ニ及ボス寄與ノ實ニ重大ナル
コトヲ思ハザルヲ得ナイノデアリマス、例
スル代リニ、却テ之ヲ壓迫シ、或ハ少クト
モ棄テ顧ミザルガ如キコトガ、其ノ原因
ヲ認識シ、映畫ノ向上發展ノ爲ニ助長援助
スル為映畫ノ上映ヲ命ジ、公益上ノ必要ニ
依リ映畫製作數量ノ制限、映畫配給ノ調整
等ニ關スル必要ナル命令ヲ發シ得ルコトト
シ、又本法施行ニ關スル重要事項ニ關スル
諸問機關トシテ映畫委員會ヲ設置スルコト
致シマスル等、映畫ノ質的向上ヲ促シ、
映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖リ、以テ國民
文化ノ進展ニ資スル爲、必要ト認メラレマ
スル事項ヲ規定致シタノデアリマスガ、尙
ホ詳細ノ點ニ關シマシテハ、委員會ニ於テ
御説明申上ゲタイト存ジマス、何卒十分御
審議ノ上、本案ニ對シ速ニ御協賛アランコ
トヲ切望スル次第アリマス(拍手)

ニナリマスルナラバ、其ノ效果ノ偉大ナル
コトハ、申上ガルマデモナイト思フノデア
リマス(拍手)國家總動員ニ際シマシテ、眼
ヲ以テ直接窺ヘテ行クト云フ、此ノ映畫
ヲ採用致シテ參リマスルナラバ、精神總動
員ノ際ニ行ハル百回ノ講演會ヨリモ、一
ノ他ノ國々ニ於キマシテハ、相競ツテ映
畫國策ナルモノヲ樹立致シテ、或ハ國立
ノ映畫製作所ヲ設立シ、或ハ國立ノ映畫
協會ヲ設ケマシテ、其ノ組織ヲ強化シ、其

ノ機構ヲ嚴ニシテ、内政ニ、外交ニ、第一線ニ立タシメテ居ルノデアリマスルガ、私各國ノ完備セル映畫法ニ關シテ、之ヲ檢討スル時間ヲ有シマセヌガ、例ヘバ今回ノ日支事變ニ於テ、我國ハ軍事的ニハ大成功ヲシテ居ツタノデアルガ、宣傳ノ戰ニ於テハ慘敗ヲ喫シテ居ル、其ノ原因ハ固ヨリアリマスルケレドモ、根本ノ原因ト致シマシテハ、先ヅ支那ニ於ケル完備セル映畫法ト、國立ノ中央電影院ノ組織トヲ比較シテ見ルガ、尤シイノデアリマス、現ニ提案セラレマシタル所ノ本案ト、其ノ優劣ノ差ノ極メテ甚シキモノヲ發見スルノデアリマスルガ、私共ハ此ノ本案ノ内容ニ於テ、現在ノ不健全ナル興行映畫界ノ基礎ノ上ニ、不健全ナル機構ト内容ヲシカ有シテ居ラナイ興行映畫界ノミヲ目標トシテ、些少ナル是正ヲ加ヘントスルダケノ本法案、此法案ヲ見マンタル場合ニ、映畫ノ重要性ヲ認識致シテ居リマスル人々ハ、正ニ颶然タルモノガアツタノデアリマス、政府ハ斯ノ如キ法案ヲ提出セラルルニ當リマシテハ、根本ニ於テ映畫ノ重要性ヲ認識シタル所ノ、映畫國策トモノ稱スベキ大方針ヲ先ヅ樹立シナケレバナラヌ筈デアリマス、其ノ大方針ガ樹立セラレテ居ルノデアルカドウカ、セラレテ居ルトスルナラバ、其ノ内容ヲ承ツテ審議ニ入りタイト思フノデアリマス

コトデアルガ、併シ我國ノ現狀ヲ以テシテ、内地ニ散在致シテ居リマスル映寫機ハ、標準型、十六「ミリ」、九「ミリ」半ト云フモノハ大凡數万臺ニ及ンデ居ルノデアリ、其ノ大部分ハ塵ニ塗ミレテ、國策奉仕ノ機會ナキヲ岬ツテ居ルト云フ有様デアリマスルカラ、之ヲ動員致シマスルコトハ、當ニ易々タルコトデアルノデアリマス、映畫ニ關スル政府ノ費用ハ、今日ニ於テハ或ハ鐵道ニ、文部ニ、内務ニ、其ノ他ノ省ニ分割セラレテ居リマスルガ爲ニ、常ニ能率ヲ失ヒツツアル、若シ是等ノ各省ノ豫算ニ加フルニ、精神總動員ノ費用ノ或ル數額ヲ加ヘテ行キマスルナラバ、恐ラク二百五十万ノ巨額ニ及ブノデハナイカト存ジマスルガ、此ノ金ヲ以テ一局ニ之ヲ統合シテ、或ハ伊太利ノ「エンテ」國立製作所ニ於テ、或ハ「リューチェ」ノ如ク國立ノ映畫協會ナドニ於テ、眞ニ其ノ企畫、人的ノ配置ノ宜シキヲ得マシタナラバ、國策映畫ノ製作ト云フモノハ、必ズヤ相當ノ可能性ヲ生ンデ來ルコトヲ私信ジテ疑ハヌ、然ルニ從來此ノ豫算ニ關シマシテ、私共ハ大藏省ノ態度ヲ見ルノデアルガ、映畫ノ重要性ガ國家任務ノ達成ニアルト云フ、本案ノ提案ノ理由ニ置イテ居ルカ、ソレサヘモ疑問ニ思ハザルヲ得ヌ程ニ、極メテ消極的ナル扱フ致シテ居ルノデアルガ、映畫ノ重要性ガ國家任務ノ達成ニアルト云フ、本案ノ提案ノ理由ナインナリトスルナラバ、宜シクモツト積極的ニ、一步ヲ踏出スベキモノデアルト云フコトハ、ドウシテモ私共ハ要望ヲゼザルヲ得スルガ、斯ノ如クシテ吾々ハ大藏省ガ一臂

ノカラ貯ス、更ニ商工省ガ企業助成ノ途ヲ講ジテ參リマスルナラバ、今日ノ費用ヲ以テ、之ニ多少ノ力ヲ添ヘマシタダケデ、立派ナルモノガ出來上ルト云フコトヲ信ジテ疑ガナイノデアリマス、滿洲ニハ滿映會社ガアリマス、北支ニハ、北支政權ハ未だ確立シタトハ言ヒ得、ナイ今日ノ狀態ニ於テ、政府ノ出資ニ依ル所ノ國策ノ映畫會社ガ出来上ラント致シテ居ルノデアリマス、是ト提携ヲシ、其ノ映畫國策ノ實現ノ爲ニ邁進ヲ致シマスルナラバ、我ガ日本ノ支那ニ慘敗ヲ喫シタル此ノ宣傳ニ於テ、必ズヤ偉大ナル效果ヲ發揮シ得ルモノデアルト云フコトヲ、私ハ信ゼザルヲ得ナイ、要スルニ政府ガ映畫ニ對シテハ、ドウ云フ認識ヲシテ居ルノデアルカ、國策的ノ價値ヲ何處ニ求メテ居ルノデアルカト云フコトニ對スル、根本ノ決心ヲ示サレルナラバ、今日ト雖モ遲クハナイノデアリマス、進ンデ東亞建設ノ爲ニ、否、世界外交ノ爲ニ統合シテ進マレタナラバ、今日ニ於テモ十分間ニ合フト云フコトヲ、私ハ茲ニ申上ゲタイト思フノデアリマス、隨テ私ハ映畫ノ大陸進出ニ關スル政府ノ御所見、政府ノ映畫ニ關スル費用ノ統合ニ關スル御所見、國內ニ散在致シテ居リマスル映寫機ノ活用ノ方法如何、將來又大藏省ガ之ニ對シテドヴ云フ方針デ積極的ノ援助ヲナサラウトスルノデアルカ、伺ツテ置キタイト思フノデアリマス

ト云フ問題、今日映畫館ハ千八百餘アリマシテ、而シテ映畫ノ觀覽者ハ年ニ三億ヲ下ラナイト申シマスカラ、恰モ映畫ガ大衆化リマスト、私共ハ全人口ノ六〇%ノ人々ガ全然映畫ニ惠マレナイ、特別ノ機會ガナケレバ映畫ニ惠マレナイト云フ現狀ヲ發見致シテ参リマス、ソレガ殊ニ農村ノ人々デアリ、漁村ノ人々デアリ、山村ノ人々デアルコトヲ考ヘテ参リマスト、映畫ノ普遍大衆化ト云フコトニ對シテ、異議ヲ挾マザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ今日映畫界ガ繁昌シテ居ルノハ、事變「ニユース」ガ掛ツテ居ルカラデアルト言ハレルガ、其ノ「ニユース」ノ上映館ト云フモノハ、全映畫館ノ中ノ僅ニ六割デアリ、而シテ前申上ゲマシタ通りニ、映畫ガ農漁山村ニ惠マレテ居ラナイ、出征兵士ヲ出シテ居リマスル郷土、近親、家族ノ人々ハ、皇軍ノ模様ハドウデアラウカ、將兵ノ安否ハ如何デアラウカト云フコトハ、瞬時モ忘レルコトノ出來ナイ最大關心事デアリマス、之ニ對シマシテ、若シタツク百班ナリ、一百班ナリノ、映畫班ヲ作ツテ行キマスナラバ、僅カ一箇月、二箇月ヲ以テ、全國津々浦々ニマデ之ヲ普及セシメテ行クコトガ出來ルノデアリマス、其ノ内容ノ詳細ハ委員會デ具體的ニ申上ゲテ見タイト存ジマスガ、今日映畫ノ價値ヲ法案提案ノ理由書ニ於ケルガ如ク重大ニ認メテ居ラレマスナラバ、ナゼ今日マデ之ヲ進ンデヤラレナカツタカ、私色々不満ヲ申上ゲタノデアリマスガ、考ヘテ参リマスレバ、其ノ根柢ハ何處ニ在ルカ、要スルニ今日我國ノ國民文化政策ノ貧困ト云フコトニ、其ノ原

ス、貧弱ナル所ノ國民文化政策ノ基礎ノ上ニ立ツテ居ル所ノ映畫政策デアベコソノ感ヲ深ウセザルヲ得ナイノデアリマスルガ、映畫ヲ通ジマシテ、私共ハ更ニ一段其ノ奥ニ在ル所ノ一般文化政策ノ確立ヲ望マザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ時期ハ戰時デ行カナケレバナラナイ時期ニ際會シテ居ルノデアリマス、私共ハ此ノ際本當ノ國民精神ノ向上ヲ期待シ、精神内容ノ豊富ヲ期待シ、更ニ國運ノ進展ニ資セントスル國民文化政策ノ具體的ナル何等カノ政策ヲ御持合セニナツテ居ラケレバナラスト云フコトヲ考ヘルノデアツテ、私ハ最後ニ、映畫ヲ通ジマシテ、文部大臣ノ文化政策ニ對スル御所見ヲ承ツテ置キタイト存ジマス以上數點不滿ヲ申上ゲタノデアリマスガ、何卒明快ナル御答辯ヲ賜ハランコトヲ希望致ス次第デアリマス(拍手)
〔國務大臣候爵木戸幸一君登壇〕
○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 御答ヲ致シマス、只今ノ村松サンノ御質問ノ第一點ハ、映畫國策ニ付テデアリマス、今回提案致シマシタ映畫法ハ、枝葉末梢的デアルト云フヤウナ御意見デアリマシタガ、政府ニ於キマシテハ、今回ノ提案ノ理由ハ、先程申上ゲマシタヤウナ理由デ、相當國民文化ノ向上ノ爲ニ、其ノ必要ヲ認メテ提案シタ次第デアリマス、唯映畫法案ニ規定セラレテ居リマスコトハ、其ノ必要デアリマスル事項ノ骨子トモ申スベキモノヲ掲ゲタノデアリマシテ、隨テ映畫國策ノ全體ガ必ズシモ此映畫法ヲ以テ盡キテ居ルト云フ譯デハナイノデアリマス、政府ニ於キマシテハ、幸ニ

シテ本法案ガ御御賛ヲ得マスレバ、之ヲ根幹ト致シマシテ、將來之ニ關聯スル必要ナル有ニル方策ヲ講ジマシテ、以テ映畫ヲ通ジマシテ、國民文化ノ向上ニ資シタイト存ジテ居ル次第アリマス
次ハ映寫機ノ利用ニ付テノ御尋ニアリマシタ、現在我國ニ於キマシテハ、大體一萬臺近イ映寫機ガアルト考ヘテ居リマスガ、是等ノ内、映畫興行者ノ有スルモノハ、毎日使用セラレテ居リマスルシ、又官廳公共團體等ノ有ニル映寫機モ、ソレハ其ノ目的ニ從ツテ動カサレテ居ルノデアリマスカラ、此ノ點ハドノ位ノ利用價值ガアルカ、十分調べテ見ナケレバナラスト存ジマス、唯御話ノ點ハ一ツノ考デアルト存ジマスノデ、尙ホ一層其ノ活用ヲ圖リ、國民文化ノ進展ニ資シタイト存ジテ居リマス
其ノ次ノ御尋ハ、官廳映畫ノ豫算ガ各省ニバラヽニナツテ居ル爲ニ、其ノ利用價值ガ少イ、之ヲ統合シテ使ツテハドウカト云フ御尋デアリマシタ、現在マデ此ノ映畫ニ使ヒマスル豫算ハ、御話ノ通り各省ニアルノデアリマスガ、是等ハ各省ガソレト特別ノ目的ニ從ツテ製作シテ居ルガ爲ニ、斯ノ如キコトニナツテ居ルノデアリマス、併シナガラ之ヲ纏メマシテ何等カノ方法デ統合致シマスレバ、其ノ效果ヲ擧ガ得ルコトモ亦考ヘラレルノデアリマスカラ、此ノ點ニ付テモ十分考究シタイト考ヘテ居リマス

面ニ於テモ、適當ナル方策ヲ御考ニナルコトト存ジマスルガ、内務省ト致シマシテモ、今後此ノ法案ガ成立致シマスレバ、是等ニ付キマシテ民間ノ製作者ヲ懲罰指導致シマスト共ニ、是ガ輸出ニ付テモ能フ限りノ便宜ヲ與ヘテ、此ノ政策ヲ遂行シテ行キタイト考ヘテ居リマス（拍手）

〔國務大臣男爵荒木貞夫君登壇〕

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）只今御尋ノ國民文化政策ニ關シテノ御尋デアリマス、可ナリ廣汎ナ問題デアリマスノデ、茲ニ簡單ニ御答ヲ申上ゲルコトニ付テハ、或ハ十分デナイカトモ存ジマスルガ、社會教育ヲ今一段ト振作ヲ致サセマシテ、今日ノ事態ヲ津々浦々マデ國民總體ノ上ニ及ボスペキ施設ヲ爲ス必要アリト感ジテ居ルノデアリマス、其ノ爲ニハ社會教育方面ニ於テハ、或ハ巡回文庫ノ如ク、或ハ定期的ニ各方面ニ必要ナル講演或ハ「ラヂオ」ヲ通ジテノ教育、幾多數ヘ來レバアルト存ジマス、今日此ノ施設ガ甚ダ貧弱デアリマシテ、御説ノ如クニ映畫ヲ通ジテスラ既ニ十分デナインデアリマス、社會教育方面ニ對シテ一段各般ノ施設ヲ致シマシテ、或ハ圖書館ノ施設、或ハ研究ニ關スル諸種ノ便宜ヲ圖ル、斯様ナコトニ依リマシテ、一切ヲ通ジテ能ク國民總體ノ上ニ政府ノ企畫サルル所ガ通ジ、更ニ之ヲ通ジマシテ時代ノ認識ヲ得セルコトガ必要デアルト存ジマス、其ノ爲ニ今御指摘ノ映畫ヲ利用スルコトハ、又其ノ一つノ最モ重要ナルモノト存ズルノデアリマス、故ニ是等ニ依リマシテ一段ノ振作ヲ期シタイト存ジマスガ、要スルニ社會教育施設ニ依リマスル普及徹底ニツ依テ、之ヲ振興スルコトガ必要ト感ジテ居ルノデア

○副議長(金光庸夫君) 岩瀬亮君
(岩瀬亮君登壇)
レタ萬國議員同盟會議カラノ歸途、私ハ歐米各國ヲ巡遊シテ、聊カ諸外國ノ文化施設ノ實際ヲ見聞シタノデアリマスガ、此ノ時既ニ映畫ハ娛樂ノ領域以外ニ、一國ノ文化產業ニ貢獻スル重大ナ役割ヲ演ジテ居ツタノデアリマス、然ルニ日本映畫ハ遠ク世界ノ水準ニ及バナイヨミナラズ、寧ロ我國文化ヲ侮辱スル感ジスラ與ヘラレ、轉々寒心ニ堪ヘナカツタノデアリマス、是ニ於テ私ハ映畫國策樹立ノ必要ヲ痛感シ、歸朝勿同憂議員多數ノ賛成ヲ得テ、第六十四回帝國議會ニ映畫國策ニ關スル建議案ヲ提出シテ、幸ヒ議會ノ可決ヲ得タ、次第デアリマス、其ノ後内務省ニ映畫統制委員會ガ出来、又官民合同ノ大日本映畫協會モ設立サレ、映畫ニ關スル世ノ認識ハ大イニ革マルニ至ツタノデアリマス、而シテ茲ニ上程シモ積極的ナ映畫國策ニハ觸レテ居ナイノデアリマス、併シナガラ私ハ是ガヨリ徹底的ナ映畫國策樹立ヘノ一步ヲ踏出シタモノトシテ、欣快ニ堪ヘナイト同時ニ、政府當局ニ對シ其ノ勞ヲ多トスル者ニアリマス、以下本法案ニ關スル根本的ナ問題ニ付テ質疑ヲ試ミタイト存ジマス

先づ第一ニ平沼首相ニ御伺致シタイノデアリマスガ、只今御見エニナリマセヌノデア適當ナ機會ニ御答辯願ヒタイト思フノデアリマス、本法案ノ第一條ニ「本法ハ國民文化ノ進展ニ資スル爲映畫ノ質的向上ヲ促シ

映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的
トス」トアルノデアリマスガ、如何ナル古
向ト如何ナル目標ニ於テ、國民文化ノ進展
ニ資スルノデアリマスカ、勤モスレバ諸外
國ノ中ニハ、崇高ナル日本文化ノ目標ヲ、
恰モ世界ノ侵略征服ニアルカノ如ク曲解シ
テ居ル向モアルノデアリマス、故ニ今回「文
化」ト云フ文字ガ初メテ法文化サレマシタ
此ノ機會ニ、日本文化ノ方向ト目標トヲ御
明示相成ルコトハ洵ニ必要ナルコトカト存
ジマス、尙ホ此ノ際總理ニ併セテ御尋シト
置キタイコトハ、總理ノ映畫ニ對スル御認
識ト、宣傳省設置ノ問題トデアリマス、齊
藤元首相ハ大日本映畫協會ノ設立サレルヤ、
自ラ進シニデ其ノ初代會長トナリ、映畫ニ對
スル首相ノ心意氣ヲ示シテ、國民ニ少カラ
ザル親ミヲ興ヘラレタノデアリマス、又近
衛前首相ハ映畫ニ及ボス感化力ノ偉大ナル
ヲ說イテ、屢々閣僚諸公ニ是ガ觀賞ヲ獎メ
レタトノコトデアリマスガ、平沼現首相ハ
果シテ如何ナル御關心ヲ御持チデアリマス
カ、申スマデモナク映畫ノ近代生活ニ占ム
ル分野ハ、頗ル深刻且ツ廣汎デアリマシテ
是ガ國民ニ及ボス影響ハ實ニ想像以上デアリ
リマス、特ニ事變下乃至戰時下ニ於ケル映畫
ノ役割ハ洵ニ重大デアリ、思想戰ニ於ケ
ル最モ有力ナル武器トサヘ言ハレテ居ル位
デアリマス、今次事變ニ付テ之ヲ見マシシテ
モ、全ク其ノ通リデアリマシテ、現ニ捲造
ノ映畫デアリ虛偽ノ宣傳デアルト知リナガ
ラモ、歐米各國ハ巧妙ナ支那ノ宣傳映畫ニ隨
分引摺ラレテ居ルデハアリマセヌカ、又「ソ
ビエト」聯邦ハ早クモ北洋ノ漁業權ヲ繞ル
日「ソ」ノ關係ヲ映畫化シテ、人心ノ收攬ニ隨
利用シテ居ルト云フデハアリマセンカ、一

犬歎ヲ吠エテ萬大寶ヲ告グト云フ言葉モアリマス、爲政者ノ再思三考スベキ問題カト存ジマス（拍手）然ルニ政府ハ此ノ事變下、而モ益、思想戰ノ重要性ヲ加ヘツツアル今日、映畫ヲ御利用ニナラナイノハ、映畫利用ニ關スル御認識ガ足ラヌノデハナイカト存ジマス、私ガ敢テ平沼首相ニ映畫ニ對スル御認識ヲ問フ所以モ亦茲ニ存スルノデアリマス、興亞聖戰ノ大目的ヲ達成スル爲ニハ、國內的ニ、國際的ニ、有効適切ナル宣傳ヲ必要トスルコトハ申スマデモアリマセヌ、而シテ其ノ最モ效果的ナ宣傳方法トシテハ映畫以上ノモノハアリマセヌ、現ニ政府モ司法省ヲ除ク各省ヲシテ、年々二百万圓内外ノ巨費ヲ投ジ、指導宣傳ノ映畫ヲ作製シテ居ルノデアリマスガ、各省割據ノ弊ハ、同ジク政府ノ宣傳デアリナガラ、類似重複、無味乾燥、所謂官廳映畫ノ譏ヲ免レナイ狀態デアリマス、故ニ之ニ統一ト連絡トヲ與ヘ、加フルニ他ノ各種宣傳機關ヲモ總括統合シテ、之ヲ一省ニ收メ、内文化ノ向上ヲ圖リ、產業ノ振興ニ資スルト共ニ國論ノ統一ニ當テ、外誤レル諸外國ノ認識ヲ是正スペキデアルト信じマスガ、首相ハ果シテ如何御考ニナリマスカ

ス、其ノ個々ニ付テ詳細ナ數字の内容ヲ御示ヲ願ヒタイノデアリマス、何トナレバ其ノ内容ト取扱如何トハ、映畫事業ノ健全ナル發達ニ重大ナル關係ガアリ、場合ニ依ツテハ角ヲ矯メントシテ牛ヲ殺スガ如キ結果ヲ招來セヌトモ限ラヌカラデアリマス、官僚獨善ノ非難囂タル昨今、之ヲ憂フル者ハ恐ラク私一人デナイト考ヘマス（拍手）其ノ二ハ映畫委員會ノ構成ト權限トニ付テデアリマス、是ハ本法案ノ可否ヲ決スベキ鍵點トモナルノデアリマスカラ、其ノ人的構成ノ諸問ノ範圍トニ付テ明確ナル御説明ヲ願ヒタイノデアリマス（拍手）其ノ三ハ登錄制度ニ付テデアリマス、政府ハ監督ヤ俳優ノ登錄制度ヲ以テ、如何ニモ非常ナ名案ノ如ク御考ノヤウデアリマスルガ、斯ノ如キハ僅ニ俳優ヤ監督ノ德義上ノ取締ニ幾分ノ效果ガアルダケデ、之ヲ以テ映畫從業員ノ質的向上ヲ望ムト云フガ如キハ、正ニ木ニ縁ツテ魚ヲ求ムルノ類デアリマス、關係從業員ノ根本的ナ問題ハ、何ト云ツテモ彼等ノ生活問題デアリマス、監督ハ兎モ角ト致シマジテ、助監督丫助手、「カメラマン」等ノ多クハ月二十圓カ二十五圓ノ薄給デ働くテ居ルノデアリマス、電車賃、煙草錢、白粉代ダケデ働イテ居リマスル男女俳優モ決シテ少クナイノデアリマス（拍手）隨テ折角登錄制ヲ御採用ニナリマシテモ、彼等ノ生活問題ニ觸レナイ限り、從業員ノ質的向上ヲ圖ルコトハ絶對不可能ノコトト存ジマスルガ、内務大臣ノ御意見ハ如何デアリマス

アリマス、今日我國ノ教育ハ依然歐米ノ模倣教育ニ墮シ、未ダ日本主義的教育ノ確立サレナイ憾ガアリマス、凡ソ改善ト云ヒ、革新ト云フモ、要ハ之ヲ教育ニ求ムルノ外ハナイノデアリマス、最近荒木文相ハ最高學府ノ立直シニ銳利ナル「メス」ヲ加ヘタリ、日本主義教育ノ根本問題デアリマスル初等教育ノ再検討ニ專ラ精進サレルナド、私ノ窃ニ敬服シテ居ル所デアリマスルガ、文相ハ初等教育改善ニ最モ效果的ナ映畫ニ教材化ト云フコトニ付テ如何ナル御考ヲ御持デアリマスルカ、少クトモ文部省ニ映畫ニ關スル一局位ハアツテ、教育映畫ノ研究ヤ其ノ配給、特ニ映畫ヲ觀る機會ニ惠マレナイ農村小學校ニ對スル「ファイルム」無料貸與ナドヲ取扱ツテ然ルベキカト存ジマス、次ニ、ヨリ良キ映畫ハ進歩シタ技術ト科學トノ綜合力ラ生レルモノデアリマンテ、俳優、監督力ヲ、「カメラマン」、助手、錄音係、「セット」係ニ至ルマデ、ソレ相當ノ教育ヲ必要トスルヲデアリマス、又良キ文化映畫ヲ製作スル爲ニハ、其ノ上ニ「レントゲン」映畫、顯微鏡映畫、高速度映畫ナドノ撮影施設ハ勿論ノコト、映畫圖書館ヤ參考館ノ設置モ必要ナノデアリマス、ニモ拘ラズ今日是等ノ技術者ヲ養成スベキ權威アル機關モナケレバ、科學的施設ノ見ルベキ何モノモナイノデアリマス、仍テ私ハ茲ニ俳優及ビ技術者ノ養成ニ對シテハ國立映畫學校、文化映畫ノ製作指導ニ關シテハ文化映畫製作研究所ノ設置が必要ト存ジマスルガ、文部大臣ハ如何御考デアリマスカ

勵ヲ爲スベキデアルト存ジマス、輸出映畫ノ保護獎勵ハ、啻ニ日本映畫ノ發達ヲ育成助長スルバカリデナク、日本及ビ日本人ノ優秀性ヲ廣ク海外ニ紹介スル上ニ於テ、千ノ演説、萬ノ「パンフレット」ニモ優ル宣傳價値アリト信ズル者デアリマス（拍手）然ルニ本案ハ輸出映畫ノ保護助成ニ關シテ聊カモ觸レテ居ナイノハ如何ナル理由デアリマスカ、所管大臣ノ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

尙ホ私ハ政府方滿洲國及ビ新興支那政府當局トノ間ニ、映畫宣傳ノ利用ニ關シ連絡協調ノ途ヲ講ジツアリヤ否ヤ、又是ガ爲日滿支映畫委員會ノ設置計畫アリヤ否ヤ、大日本映畫協會ノ利用ニ關シ特別ノ考慮ヲ拂フ意思アリヤ否ヤ、又映畫事業ノ資金問題ニ關スル御所見、更ニ演劇、「レビュ」、紙芝居等ニ對スル御所見ニ付テモ々御伺ケテ居リマスルノデ、是等ノ點ニ付キマシテハ委員會ニ讓ルコトト致シマス

唯最後ニ一點申上ゲタイコトガアリマス、ソレハ新聞社ヤ通信社ナドノ「ニュース」映畫ニ付テアリマス、今次事變勃發以來戰線ト銃後トノ距離ヲ縮メ、是ガ融合ヲ圖ル上ニ於テ、凡ソ「ニュース」映畫以上ノ何モノガアツタデアリマセウカ、都市ト農村トノ區別ナク、焼ケ付クヤウナ瞳ヲ注イデ戰線ノ子弟ヲ「スクリー」ニ求メル映畫商會ノ一場面コソ、其ノ間ノ消息ヲ物語ツテ餘リアルノデアリマス、況ヤ官製ノ國民精神總動員運動ニ比シテ、一本ノ「ニュー

ス」映畫ガ、如何ニ舉國一致ノ態勢樹立ニノ演說、萬ノ「パンフレット」ニモ優ル宣傳價値アリト信ズル者デアリマス（拍手）然ルニ本案ハ輸出映畫ノ保護助成ニ關シテ聊カモ觸レテ居ナイノハ如何ナル理由デアリマスカ、所管大臣ノ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

○國務大臣（侯爵木戸幸一君）最初ニ御尋ニゴザイマシタ製作業者、配給業者等ノ數等ニ於テ適當ナ資料ヲ提出スル積リデ居リマスカラ、其ノ時ニ御説明致シタイト存ジマス

次ニ御尋ノ映畫委員會ノ組織權限デゴザイマス、映畫委員會ハ其ノ運用如何ニ依リマシテハ、各方面ニ大ナル影響ヲ及ボスマノデアリマスカラ、特ニ此ノ組織ニ付キマシテハ、廣ク貴衆兩院ノ議員ヲ初メ衆智ヲ集メマシテ、其ノ協力ヲ求ムルコト致シタイト存ジテ居リマス、尙ホ映畫委員會ニ於キマシテハ、本法施行ニ關スル重要事項ヲ諸問スルコトト致シマスト共ニ、廣ク映畫ニ關シマスル事項ニ付テハ、建議ヲスルコトガ出來ルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス

次ニ登錄制度ニ關シマスル御質問デアリマシタガ、御話ノ通り從業員ノ質的向上ヲ圖リマスニハ、其ノ生活問題ト云フコトガ極メテ重要ナ事デアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ興行會社其ノモノノ改善ト共ニ考慮セラルベキモノデアルト考ヘルノデアリマシテ、本法役立ツカヲ思フニ於テオヤデアリマス、政府當局ノ深甚ナル御考慮ヲ促シテ已マナイシタイト存ジマス（拍手）

○國務大臣（侯爵木戸幸一君）最初ニ御尋ニゴザイ犠牲トナラレタ「カメラマン」諸君ノ英靈ニ對シ、各位ト共ニ謹シ敬弔ノ意ヲ表シタイト存ジマス（拍手）

〔國務大臣侯爵木戸幸一君登壇〕

○國務大臣（侯爵木戸幸一君）最初ニ御尋ニゴザイマシタ製作業者、配給業者等ノ數等ニ於テ適當ナ資料ヲ提出スル積リデ居リマスカラ、其ノ時ニ御説明致シタイト存ジマス

次ニ御尋ノ映畫ノ輸出促進ノコトデアリマス、是ハ現在ノ日本ノ映畫ガ、市場ガ國內ニ限ラレテ非常ニ狹イト云フコトガ、一面ニ於キマシテ我國ノ映畫事業ノ大キナ缺點デアリマス、サウ云フ次第デアリマスカガ社會ニ與ヘマス影響ニ付テ、十分ノ考慮ヲ拂フヤウニ致シタイト存ズル次第デアリマス

次ニ御尋ノ映畫ノ輸出促進ノコトガ、一マス、是ハ現行ノ日本ノ映畫ガ、市場ガ國内ニ限ラレテ非常ニ狹イト云フコトガ、一面ニ於キマシテ我國ノ映畫事業ノ大キナ缺點デアリマス、サウ云フ次第デアリマスカガ社會ニ與ヘマス影響ニ付テ、十分ノ考慮ヲ拂フヤウニ致シタイト存ズル次第デアリマス

尙ホ映畫施設ノ中央機關ニ付キマシテハ、是亦御指摘ノ如ク、列國ニ比シテ甚ダ貧弱ナ感ガアルコトハ、私モ痛感致スノデアリマスガ、只今御示ニナリマシタ獨立映畫製作研究所其ノ他ノ中央機關ノ設置ニ付キマシテハ、ソレド財政當局及ビ是等技術並ニ研究機關ノ助長ト共ニ、將來ニ於テ大イニ考慮致シタイト存ズル次第デアリマス

○副議長（金光庸夫君）野口喜一君
〔野口喜一君登壇〕

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）只今御尋ノマシタガ、御話ノ通り從業員ノ質的向上ヲ圖リマスニハ、其ノ生活問題ト云フコトガ極メテ重要ナ事デアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ興行會社其ノモノノ改善ト共ニ考慮セラルベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府ノ補助ヲ與ヘマシテ、映畫教育中央會ヲトガ感スルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府當局ノ深甚ナル御考慮ヲ促シテ已マナイシタイト存ジマス（拍手）

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）只今御尋ノマシタガ、御話ノ通り從業員ノ質的向上ヲ圖リマスニハ、其ノ生活問題ト云フコトガ極メテ重要ナ事デアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ興行會社其ノモノノ改善ト共ニ考慮セラルベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府ノ補助ヲ與ヘマシテ、映畫教育中央會ヲトガ感スルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府當局ノ深甚ナル御考慮ヲ促シテ已マナイシタイト存ジマス（拍手）

〔國務大臣男爵荒木貞夫君登壇〕

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）只今御尋ノマシタガ、御話ノ通り從業員ノ質的向上ヲ圖リマスニハ、其ノ生活問題ト云フコトガ極メテ重要ナ事デアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ興行會社其ノモノノ改善ト共ニ考慮セラルベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府ノ補助ヲ與ヘマシテ、映畫教育中央會ヲトガ感スルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府當局ノ深甚ナル御考慮ヲ促シテ已マナイシタイト存ジマス（拍手）

ハ多年ノ間唱ヘラレタ所デアリマスガ、今日マデ其ノ利用ガ十分デナカツタト云フコトヲ感スルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府ノ補助ヲ與ヘマシテ、映畫教育中央會ヲトガ感スルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府當局ノ深甚ナル御考慮ヲ促シテ已マナイシタイト存ジマス（拍手）

○副議長（金光庸夫君）野口喜一君
〔野口喜一君登壇〕

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）只今御尋ノマシタガ、御話ノ通り從業員ノ質的向上ヲ圖リマスニハ、其ノ生活問題ト云フコトガ極メテ重要ナ事デアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ興行會社其ノモノノ改善ト共ニ考慮セラルベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府ノ補助ヲ與ヘマシテ、映畫教育中央會ヲトガ感スルノデアリマス、是ガ爲ニ曩ニ政府當局ノ深甚ナル御考慮ヲ促シテ已マナイシタイト存ジマス（拍手）

認メラレルニ至ツタノデアリマス、映畫業者ハ其ノ營利的ナルト非營利的ナルトヲ合ハセテ其ノ數六百六十三、全國常設館一千二百六十五、内地人口ニ對シマシテ四万人ニ對シテ一つノ當設館ノ平均數ヲ示シテ居リマス、支那、滿洲ニ於ケル日本人經營館ハ六十六アリマス、映畫關係從業員ノ數七千ヲ算フルニ至ツテ居リマス、全國ニ於ケル有料觀覽者數一箇年約三億ト、無料觀覽者數ノ約三億トヲ合シマスト、實ニ延數六億餘ノ巨額ニ上リマシテ、大和民族一億人口ノ延六倍ヲ示シテ居ルノデアリマス、其ノ文化性ト教化性トガ如何ニ國民大衆ノ實生活、思想生活上ニ影響ヲ齎シテ居ルカト云フコトハ、此ノ數字ヲ以テシテモ如實ニ現ハレテ居ルト私ハ思フノデアリマス、是等多數ノ觀覽者ノ中デ、良キ教化トシテハ或ハ時局認識ヲ深メ、銃後國民ノ赤誠ヲ各人ガ各様ニ表現シ、或ハ各自ガ本分ニ從ヒ、發奮努力其ノ忠誠ノ誠ヲ行ウテ居ルモノモアリマスガ、又一方惡キ影響ト致シマシテハ、逸樂怠惰ニ沈淪シテ、却テ國民の大義ヲ誤リ、恥辱ヲ永久ニ言ヘナイノデアリマス、斯ノ如キ感化誘引ノ強力ヲ持ツテ居リマス映畫ニ依ツテ、國民大衆ノ文化指導ヲ作爲シマス時ハ、演說講演ノ理論的ノモノヨリ、大衆效果ニ於テ、理解ハ映畫ノ右ニ出ヅルモノナシト確信致ス者デアリマス、既ニ英吉利、亞米利加、佛蘭西、獨逸、伊太利、滿洲ニ於テハ、映

畫法ヲ制定シ、獨伊米ノ如キハ、專ラ映畫ヲ確立シテ居ル事實方アルノデアリマス、我國ノ如キハ漸クニシテ今日獨伊ニ倣ヒ、映畫國策ノ建前カラ、初メテ政府ガ本法ノ立案ヲ畫スルニ至ツタノデアリマス、從來ノ警察行政ヨリ一步ヲ進メマシテ、法的基礎ニ依ツテ其ノ統一ヲ圖ラント致シマスガ、發達過程ガ完全ナル資本主義的機構ニ未ダ成熟シテ居ナイ所ノ日本映畫ニ對シマシテ、全ク完成セル米國ノ猶太系大資本映畫トラ相對セシメル時、邦畫ノ大資本的機構ノ缺如ニ、深ク同情的ノ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト思フ者デアリマス、今ヤ邦畫ノ素質向上ヲ要望致シマス聲ハ、朝野ノ輿論デアリマスガ、政府ハ國際文化ノ情勢ニ押サレテ、徒ニ獨伊ニ模倣シテ急遽茲ニ之ヲ法制化セントノ意向デアル如ク觀察シ得ラレマスルハ、恰モ暴風下ニ於ケル近火警鐘ノ亂打ニ接スルノ思ヲ感ゼシメマス、茲ニ上程ナレマシタル本案ヲ檢討致シマスルニ、現下ニ於ケル文化的國民生活ノ實狀ニ照シテ、私ハ以下七點ニ付テ御質問申上ゲマス

第一點ハ、國民的精神指導方策ニ種々ナル方法ハアリマスガ、最モ容易ニ各國民層ニ徹底セシメル手段トシテハ演劇及ビ映畫デアリマセウ、我ガ特有ノ國柄ヲ現ハシ、大和魂ヲ不知不識ノ間ニ訓練シテ、所謂八紘一字ノ大精神ヲ知得セシムル最善ナル方策トシテ、演劇國策ヲ確立モ亦其ノ一つデア

ルト信ジマス、既ニ友邦獨伊ニ於テハ演劇國策ヲ樹立シテ、國立研究所ニ依リ平易簡明ニ國民ノ精神指導ヲ敢行シテ居リマス、近代日本ハ歐米ニ率先シテ總テニ範タルベカラザル地位ニアリマス、娛樂モ、趣味モ、或る程度マデヘ人間生活上必須ナル心ノ糧デアリマシテ、其ノ醒醐味ノ神祕境ニ浸リツツ大衆指導ガ出來得マスルハ演劇ト映畫デアリマセウ、今ヤ時局ハ長期建設ノ秋ニ拘ラズ、都下各大劇場及ビ映畫館ハ何レモ滿員盛況ノ實情デアリマス、是等ハ一面大國民ノ悠揚迫ラザル態度トシテ第三國モ觀察スル事デアリマセウガ、ヨリ宜キ内容ヲ具有スル日本演劇確立ノ爲、國立演劇映畫研究所ヲ設立スル必要性ヲ感ジマスガ、此ノ際政府ノ御意向ヲ伺ヒタク存ジマス、第二點、東亞ノ新秩序ガ所謂三國共同體ニ依リ、提携互助連關ノ一單位トシテ、文化的工作ニ、進展セントスル時、日本映畫ノ對支輸出ヲ簡易化セシメテ、支那人ヲシテ日本化シタル亞細亞人ニ宣撫教導セネバナリマセヌ、邦畫ノ對支輸出ニ特別ナル便宜ヲ與ヘ、而シテ其ノ助長政策ヲ講ズル要トアリト信ジマス、衣食住足リテ禮節ヲ知ル人類ガ、尙ホ其ノ足ラザルニモ拘ラズ、欲求スルモノハ娛樂デアリ、風潮ニ導キ、政治經濟ニ貢獻セシメンニハ、其ノ宣撫的文化工作ヲ第一義トシテ、支那民眾ノ氣持ヲ捉フルノガ急務デアリマス、近頃ノ巷ヨリ、支那四億ノ民衆ヲ平和的

ス、其ノ一手段トシテ國策邦畫ヲドシヽ
對支輸出シテ支那民衆ヲ誘導セネバナラヌ
ト存ジマス、然ルニ我レ之ニ消極的ナル時
ハ、世界的恐怖デアル米ノ猶太系大資本ニ
依ル宣傳映畫ノ爲、援蔣「イデオロギー」ヲ
支那人ニ植付ケ、日支提携ニ水ヲ差ス大キ
ナ惧レアルヲ國民ト共ニ憂ヘテ止マザルモ
ノガアリマス、米ハ映畫ヲ以テ四大事業ノ
一トシテ重視シ、其ノ投資額三十億弗、製作
費ガ一箇年約二千五百万弗、全世界ニ輸出
スル利益一箇年額一億一千万弗ニシテ、我
國ノ映畫輸出年額ハ、約百万圓位ノ僅少ナル
ヲ知ルニ於テ、全ク天地雲泥ノ差ト言ハザ
ルヲ得マセヌ、其ノ最大原因ハ國體、國情、
國語普及ノ關係ニ基因スルトハ云ヘ、恐ル
ベキハ以上ノ大輸出米畫ガ支那デ盛ニ歡迎
サレテ居ルコトアリマス、邦畫ガ同文ノ
支那へ進出シテ居ラナイノモ、一ツニハ蔣政
權ヲ増大セシメ、支那民族ノ一部カラ誤解
サレテ居ルノモ、是等ノ對策ヲ等閑視シテ
居タコトガ、大事變ヲ誘引シタ一原因ヲ成
シテ居ルト言ウテモ、過言デハアリマスマ
イ、政府モ業者モ此ノ重要ナル文化機關ヲ
易イ映畫ヲ通ジテ全世界ニ向ソテ顯揚シ透
徹セネバナラヌト存ジマス(拍手)先ヅ日滿
支連鎖ノ映畫ヲ製作配給セシメ、即チ大陸
映畫ノ上映ヲ支那ニ之ヲ積極的に輸出工作
セシメルノ要ヲ痛感致シマス、之ニ對スル
政府ノ所見ヲ伺ヒタク存ジマス

第三點ハ列國八等シク外畫ノ輸入ヲ恐レ
テ居マス、獨逸ノ如キハ千九百三十三年
九月、其ノ文化評議會法ニ依ル「ナチス」精
神及ビ政治普及ヲ徹底セシメル爲ノミノ自
國映畫ノ保護ト、外畫輸入制限ヲ敢行シテ
居リマス、隨テ自國映畫ノ輸出ニ付テハ、
獨伊共檢閱免除ヲ實行シテ獎勵ノ實ヲ擧ゲ
テ居ルト聞キマスガ、我國ニ於テモ、政府
ハ將來邦畫ノ輸出ニ對シ、素質向上セバ
檢閱免除ノ如キ政策ヲ執ラマスヤ否ヤ、
非常時日本ハ輸出入ノ平均ヲ保持センガ爲
ニ、國民ノ需要及ビ輸出工業製品ノ爲ニ、
必要ナル資材ノ輸入ニ對シテモ、特ニ禁止
的ノ輸入制限ヲ爲シ、中小輸出商工業者
ハ時局認識ノ上カラ隱忍自重シテ居ルニ
拘ラズ、我ガ建設日本現下ニ於テ何等必要
ナキ米畫ヲ十三年度ニ於テハ數百本ノ輸入
ヲ許可シ、之ガ爲約二千万圓ノ巨額ノ金ヲ
米ヘ流出スル遺憾ナル結果ヲ惹起シタト聞
クガ、大藏大臣ノ之ニ對スル御見解ヲ伺フ
次第デアリマス、國民思想ニ及ボス興行方
面ヨリ論ジマシテモ、外畫專門館ニハ必ず
國策映畫ヲ併合上映セシメ、二本建興行ニ
スルコトガ絕對ニ必要デアルト思ヒマス、外
畫專門館ニテ「アメリカニズム」ニ陶醉シテ
トラン少女」ガ「タビ封切セラルルヤ、帝
都ノ洋畫「ファン」ハ舉ゲテ熱狂シテ、續映
アナ・ダービン」ヲ主役トスル「オーケス
更ニ續映ノ場合ヲ展開シマシタ、是等カラ

我ガ日本人ノ得タモノハ何カ、未ダ残存スル碧眼紅毛ニ對スル依存的思想ト、一本ニ八十萬圓也ノ邦貨ヲ米國へ流レ込マシタ國家的損失ノニツヲ擧ゲザルベカラザル事實ガアルノデアリマス（拍手）故ニ外畫輸入ニ關シマシテハ、所謂不見轉輸入ト謂ハレル「ブラインド・ブッキング・システム」ニアラザル、即チ金ノ流出ヲ防止シナガラ優秀文化參考映畫ノ制限的配給ヲ内容トスル、所謂「クオーター・システム」ニ映畫貿易行政ヲ實施セラレンコトヲ望ミマスガ、政府ノ御所見ヲ伺ヒマス

次民間業者ニ對シテ是ガ助成金ヲ將來交付スルノ意思アルヤ否ヤ
第五點、政府ハ國民ニ對シテ有ニル生
活様式ニ於テ統制經濟ヲ強制シテ居リマ
ス、良キ程度ノ統制ハ必要デアリマス
ガ、私ハ茲ニ伺ヒタイコトハ、司法省ヲ除
キマシテ中央官廳十二省、朝鮮、臺灣、
樺太、南洋ノ各廳ヲ加へ實ニ三十六
部局、其ノ他農會等ノ團體ヲ入レマンシテ、
情報ニ、教育ニ、農林ニ、商工指導ニ、貯
蓄ニ、保險ニ、運輸又國際觀光ニ、衛生、
體力向上ニ映畫ヲ利用シテ居ルコトハ、何
人モ承知ノ如クデアリマスガ、如何ニ映畫
ガ娛樂興行以外ニ大ナル國家的使命ヲ持ツ
テ居ルカガ、之ヲ以テモ裏書セラレル譯デ
アリマス、各官廳ハ宣傳ト從業員教化及ビ
娛樂映畫等ヲ製作セシメテ居リマスルカラ、
本法ニ於テハ是等官廳映畫ノ製作ヲバラバ
ラニセズ、企畫アル統制下ニ置カルモノト
思考シテ居リマシタ所、何等此ノ點ニ觸レ
テ居ナイノハ全ク意外デアリマシタ、少ク
トモ一省十万圓以上ノ製作費ヲ支出シテ居
ルト聞イテ居リマスガ、之ヲ一元化セバ百五
十萬圓以上ノ經費ヲ以テ製作スルコトガ出
來、民間業者ト連絡シテ製作スルナラバ、
彼我共ニ補助ヲ受ケタルト同一的ノ結果ト
モナリマシテ、保護助成ノ目的モ達成セラ
レ、各官廳ノ宣傳效果モ百「パーセント」ニ至
ラシムルコトノ可能ヲ推定シ得ルノデアリ
マス、サナキグニ官廳相互間ノ事務ノ不統
一ヲ聞ク時、國策映畫製作ヲ機ニ各官廳間

ノ映畫ヲ其ノ製作ニ於テ統制シテ、範ヲ國民ニ示シ、斯クシテ漸次ニ進歩的過程ヲ經由スルハ、近代ニ適切ナル政府自身ノ自督的方策ト思ヒマスルガ、政府ノ御所見ヲ明確ニ伺ヒタイト存ジマス

第六點、農山漁村民ノ生活ヲ思フ時、生産力擴充計畫遂行ノ現在ニ於テ、離農者續出スル傾向ハ洵ニ憂フベキ事デアリマスカラ、政府ハ文化的娛樂ノ分配配給ノ計畫ヲ樹立シテ、農山漁村ニ國策映畫ヲ無料配給シ、本當ノ舉國一致、東亞再建ノ大義ヲ認識セシムルコトモ、長期建設途上ニ於ケル農村對策ノ一ツト思ヒマス、小學校内又ハ村内集會所ノ如キ簡單ナル場所ニ依ツテ出来得ルコトデアリマシテ、文部省或ハ國民精神總動員聯盟等ガ、一年ニ一二度位巡回スルカシナイカ程度ノ微溫的ナルモノデハ到底農山漁村ノ國民ニ時局認識ト日本精神ノ鼓吹ニ伴フ娛樂ヲ興フルコトハ不可能デアリマス、現在ヨリ以上ニ普及セシメルト云フ、政府ニ右様ノ御考アリヤ否ヤヲ伺フ次第アリマス

最後ニ文部大臣ニ年少者映畫ノコトニ付テ伺ヒマス、一箇年ノ有料觀覽者約六百万餘ノ數ヲ示ス年少者ノ映畫對策トシテ、興行映畫觀覽ヲ禁ズルハ、其ノ性行及ビ學業ニ及ボス影響等ヲ考慮シテ、原則トシテ禁止規定ノ妥當ナルヲ認メマスルガ、過去ニ於テ甲乙二種ニ致シタル大正七年八月ノ取締規則モ、一箇年ニテ廢止ノ已ムナキニ至ツタ事實ガアル、故ニ此ノ際十分ナル之ニ

對スル檢討ヲ必要ト致シマス、教育及ビ文
化映畫、民族精神涵養ニ資スル歴史的、文
藝的ノ時局反映ノ作品ヲ上映シテ、年少者
ヲ映畫ノ上カラ指導訓育スルモ亦必要ナル
事ニ屬シマス、年少者週間トカ、或ハ一步
進ミマシテ、獨逸ノ如ク少年映畫館、又ハ
學校内ニ一定日時ヲ定期的ニ年少者
ニ適切ナル娛樂ヲモ伴フ指定映畫ヲ上映セ
シムルコトモ必要ノ一ツデアリマス、年少
者ヲシテ文化ニ接セシメズ、倚ラシムベシ
知ラシムベカラズノ封建的思想政策ハ、潔
白神ノ如キ少年ヲシテ徒ニ退學的ニ陥ラシ
ムルハ勿論、進取、明朗、潑刺、鮮魚ノ如
キ少年ノ特異性ヲ滅却セシムルノ虞ヲ覺エ
マス、斯ノ如キハ第二國民ノ精神訓育ニ重
大ナル結果ヲ想定シ得ラレマスカラ、政府
當局ノ慎重ナル施政ヲ要望シテ止ミマセヌ、
之ニ對スル御所見ト、且ツ年少者ヲ十四歳
ニ關係各大臣ヨリ明快率直懇切ナル御答辯
ヲ要求致シマシテ、私ノ質疑ヲ終ル次第デ
ヲ文部大臣ニ伺ヒマス

アリマス(拍手)

〔國務大臣侯爵木戸幸一君登壇〕

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 只今野口サ
ンノ御寧ノ中私ニ關係シタル部分ニ付テ御
答致シマス、日滿支映畫事業ノ提携ト云フ
コトニ付キマシテノ御質問デアリマシタ、
日滿支映畫事業ノ提携ト云フコトハ、我國
ノ東亞政策上カラ見マシテモ極メテ重要ナ

ルコトデアリマス、殊ニ宣撫的文化工作トシテハ、最モ重要ナル役割ヲスベキモノト考ヘテ居リマス、現ニ日本映畫ハ相當滿洲、支那方面ニモ輸出サレテ居ルノデアリマスガ、尙ホ今後益々三國映畫事業ノ關係ヲ緊密ニ致シマシテ、此ノ方面ニ向ツテモ十分進出スルヤウ努力致シタイトト考ヘテ居リマス

ヲ圖リマシテ、又ソレ等ノ手段ニ依リマシテ、相當基礎ヲ確立致スコトノ出來ルコトヲ信ジテ居ル次第アリマス、併シナガラ將來ニ於キマシテ是等ノ國民的ノ文化向上ニ對シマシテ必要ガアリマスレバ、是等ノ點ニ付テモ考慮ヲ致ス考デ居リマス

時ヲ抑ヘテ、十四歳ニ決定シタ次第デアリ
マス、尙ホ農村ニ對スル映畫ノ配給或ハ國
立劇場ノ設立等ニ付キマシテハ、先程一端
ヲ申述べマシタコトニ依ツテ御諒承願ヒタ
イト存ジマス

ルコトデアリマス、殊ニ宣撫的文化工作トシテハ、最モ重要ナル役割ヲスベキモノト考ヘテ居リマス、現ニ日本映畫ハ相當滿洲、支那方面ニモ輸出サレテ居ルノデアリマスガ、尙ホ今後益、三國映畫事業ノ關係ヲ緊密ニ致シマシテ、此ノ方面ニ向ツテモ十分進出スルヤウ努力致シタイト考ヘテ居リマスソレカラ外國映畫ノ制限ニ付テノ御臺デアリマス、外國ノ映畫ガ我國ノ人心ニ與ヘマス色々ノ影響ニ付キマシテハ、只今御話ノ通り、一面ニ於キマシテハ非常ニ惡イ影響モアルガ、又一面ニ於キマシテハ外國ノ風俗習慣等ヲ廣ク國民ニ知ラセマス效果モアルノデアリマス、今日此ノ法案ニ於キマシテ之ヲ相當制限シマスノハ、只今ノヤウナ惡イ方ノ影響ヲ防止致シマスト共ニ、日本映畫ノ市場ヲ廣メル見地カラ致シマシテ、相當數ノ配給ノ制限ト、上映ノ制限ヲ行フ考デ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ文化映畫ノ類ニ對シマシテハ、此ノ制限ハ行デアリマスカラ、娛樂ノ方ニ付キマシテモ、絶對ニ之ヲ禁止スルト云フコトハ、只今ノ所考ヘテ居ラナイ次第デアリマス

ソレカラ映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲ニハ、一面ニ於テハ、行政上精神的ノ援助等モアリマスガ、更ニ進ンデ助成金ヲ交付スル考ハナイカト云フ御尋アリマシタ、其ノ點ニ付キマシテハ差當リ政府ト致シマシテハ、此ノ法案ノ運用ニ依リマシテ、亂立致シテ居リマスル各製造業者、配給業者等ノ統制

ヲ圖リマシテ、又ソレ等ノ手段ニ依リマシテ、相當基礎ヲ確立致スコトノ出來ルコトヲ信ジテ居ル次第アリマス、併シナガラ將來ニ於キマシテ是等ノ國民的ノ文化向上點ニ付テモ考慮ヲ致ス考デ居リマスソレカラ官廳映畫ノ製作機構ノ統一ニ付

時ヲ抑ヘテ、十四歳ニ決定シタ次第デアリ
マス、尙ホ農村ニ對スル映畫ノ配給或ハ國
立劇場ノ設立等ニ付キマシテハ、先程一端
ヲ申述べマシタコトニ依ツテ御諒承願ヒタ
イト存ジマス

ヲ圖リマシテ、又ソレ等ノ手段ニ依リマシテ、相當基礎ヲ確立致スコトノ出來ルコトニ對シマシテ必要ガアリマスレバ、是等ノ点ニ付テモ考慮ヲ致ス考デ居リマス。ソレカラ官廳映畫ノ製作機構ノ統一ニ付キマシテハ、先程村松サンニ御答シタ所存ジマスカラ、大體御承知ト存ジマスガ、是等ハ各官廳ガソレム、特別ナル目的ヲ以テ製作致シマスコトガ多イノニアリマス、隨ヒマシテ之ヲ一つノ特設機關ヲ作ツテ纏ヌマスコトガ、果シテ十分改善セラレル一ツノ手段ニナルヤ否ヤニ付テハ、相當利害得失ヲ考ヘナケレバナラスト存ジテ居リマス、併シ或ル部分ニ付テハ其ノ必要モアルモノト存ジマスルガ、是等ハ十分一つ考究シタイト考ヘテ居リマス。

時ヲ抑ヘテ、十四歳ニ決定シタ次第アリ
マス、尙ホ農村ニ對スル映畫ノ配給或ヘ國
立劇場ノ設立等ニ付キマシテハ、先程一端
ヲ申述べマシタコトニ依ツテ御諒承願ヒタ
イト存ジマス

時ヲ抑ヘテ、十四歳ニ決定シタ次第デアリ
マス、尙ホ農村ニ對スル映畫ノ配給或ヘ國
立劇場ノ設立等ニ付キマシテハ、先程一端
ヲ申述べマシタコトニ依ツテ御諒承願ヒタ
イト存ジマス

○副議長（金光庸夫君） 赤松克麿君

〔赤松克麿君登壇〕

○赤松克麿君 今回映畫法ガ上程サレルニ
當リマシテ、私ハ二三質疑ヲ致シタイト思
フノデアリマスガ、極メテ大體ナ簡單ナ質
問ヲ致シマシテ、詳細ハ委員會ニ譲リタイ
ト思フノデアリマス、此ノ映畫方新聞ヤ「ラ
ヂオ」ト共ニ、國民ニ對スル最モ大ナル宣
傳力ト、感化力トヲ持ツテ居ルト云フコト
ハ申スマデモナインノデアリマシテ、之ヲ今
マデ政府ガ自由ニ放任シテ居ツタト云フコ
トガ抑、怠慢ナノデアリマシテ、今回映畫法
ガ上程サレルト云フコトハ、稍、遲キノ憾ミ
ガアルノデアリマスガ、併シ今回兎ニ角映
畫法ガ上程サレルト云フコトハ、我國ノ文
化立法トシテ劃期的ナ意義ヲ有スルモノト
シテ、吾々ハ之ヲ衷心カラ歡迎スル者デア
リマス（拍手）併シ今度ノ映畫法ガ出マスル
一つノ眼目ハ、良イ映畫ヲ作ルコトデアル
ト思フノデアリマス、今マデ行ハレテ居ル
映畫ト云フモノガ、ドウモ享樂本位デアリ、
興味本位デアリマシテ、青年子女ガ見テ芳
バシカラヌモノモ大分アルノデアリマス、
是モ今マデ自由主義經濟ノ下ニ、全ク營利
的商品トシテ映畫ガ作製サレタノデアリマ
スカラ、已ムヲ得マセスケレドモ、併シ又

一方官廳方各省ニ於テ色々國策ノ爲ニ作ラ
レタ映畫ト云フモノモ、是モ餘り面白イモ
ノデハナイノデアリマス、政府ノ國策宣傳
タヤウナ文化的存在ハ、餘リ「イデオロ
ギー」ガ露骨ニ出ルト、大衆ノ感興ハ惹カナ
イノデアリマス、ソコニ文化的價値ト大衆
ニ「アッピール」スル藝術的ノ價値ガ一致ス
ルコトニ依ツテ、初メテ立派ナ映畫ガ生レ
テ來ルノデアリマス(拍手)所ガ從來政府デ
作ラレマシタ映畫ト云フモノハ、或ル特定ノ
目的ハ稍、ハツキリシテ居リマスケレドモ、
其ノ大衆ニ與ヘル效果ハ寧ロ無味乾燥デア
リマシテ、餘リ感動ヲ與ヘナイノデアリマ
ス、デアリマスカラ、寧ロ是ハ大衆方面カ
ラ見レバ、動モスレバ之ヲ散遠スル傾向ガ
多々アルト思フノデアリマス、總テガ惡イ
ト申シマセヌ、中ニハ隨分良いモノモアリ
マスケレドモ、ドツチカト言ヘバ餘リパツ
トシナイモノガ多イノデアリマス、私ハ此
ノ映畫ノ統制ニ當リマシテハ、此ノ點ハ非
常ニ重要ナノデアリマシテ、他ノ統制ト違
ヒマシテ、角ヲ矯メテ牛ヲ殺ス結果ニナラ
ヌヤウニ、詰リ國民ノ個人的ナ藝術的創意
「クリエーション」ト云フモノヲ抑ヘ付ケナ
イ場合ニ於テハ、却テ藝術ニ對スル一ツノ
思ト、國民ノ中ノ藝術的創意ト云フモノヲ、
壓迫カラシテ、映畫政策ハ却テ角ヲ矯メテ

牛半殺ス結果ニナルト云フコトヲ恐ルルノ
デアリマス、此ノ點ハ私ハ非常ニ重要點デ
アルト思フノデアリマス、今マデ各官廳ニ
於テ作ラレマシタ映畫ハ官吏ガ之ヲ作り、
指導スル、ソコニ一ツノ國策映畫ト云フ銘
ヲ打ツタモノハ生レマスケレドモ、ソレヲ
見テ満足スル者ハ作ツタ官吏ダケデアリマ
ス（拍手）ソレハ官吏ノ自己満足ナノデアリ
マシテ、大衆ハサツバリ満足シナイノデア
リマス、斯ウ云フコトガ今後ナイヤウニシ
テシマツテ、常ニ大衆ノ感興ト云フモノニ
政府ノ考ヘテ居ル國策的意思ヲ巧ニ織込マ
セテ行ク方法ヲ考へル必要ガアルト思フノ
デアリマス、今マデノ官廳ノ映畫ノヤウ
ニ、餘リ映畫ノ政策ノ中ニ官吏ガ立入り過
ギルト云フコトモ、全然惡イトハ言ヒマセ
ヌガ、ドウカト思フノデアリマシテ、寧ロ是
ハ政府ガ或ル一定ノ「アイデヤ」ヲ民間ノ專
門家ニ與ヘマシテ、之ニ一定ノ補助金ヲ交
付シテ、サウシテ民間ノ専門家ガ政府ノ意
ヲ體シテ自由ニ作ルト云フコトガ、却テ立
派ナモノガ出來ハセスカト思フノデアリマ
ス（拍手）サウシテ初メテ映畫ノ效果ト云
フモノガ現ハレテ來ルノデハナイカト
私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、兎ニ角良イ
映畫ヲ作ルト云フコトニ關シマシテ、此ノ
映畫法ニ於テハ其ノ具體的方法ガ現ハレテ
居リマセヌガ、如何ニシテ良イ映畫ヲ作ル
カト云フコトニ關シマシテ、何カ政府ノ御
所見ガアレバ伺ヒタイト思フノデアリマス
其ノ次ハ今マデ度々同僚ノ諸君ガ觸レラ

レマシタ點デアリマスガ、農村ニ於ケル映畫ノ配給問題デアリマス、農村ト都市トノ資本主義的不平均ト云フモノガ、今日ノ農村ト都市トノ缺陷ノ最大ノ癌デアリマス、青年子女ガ農村ヲ離村スルト云フ一因モ亦茲ニ存スルノデアリマス、ソコデ私ハ斯ウ云フコトヲ政府ガ一ツオヤリニナツカラドウカト、私ノ私案ヲ提案スルノデアリマスガ、一ツ移動映寫班ト云フモノヲ作ル、ソレハ政府自ラヤラヌデモ宜シイ、今日ノ映畫業者ニ移動映寫班ト云フモノヲ組織セシメマシテ、之ニ一定ノ補助金ヲ與ヘテ、特定ノ地方ニ巡回ノ映畫ノ興行ヲ命ズル、又映畫業者モ映畫報國ノ精神ニ立チマシテ、損ヲシナイ程度ニ於テ、十分其ノ國家ノ事業ニ奉仕シテ、全國ニ於テ行クト云フ考ヲ持タセマシテ、政府ハ之ニ一定ノ補助金ヲ交付シテ、映畫業者ト協力シマシテ、移動映寫班ニ依ツテ、全國ニ於ケル農村、漁村、山村ノ津々浦々ニマデ、文化ノ貧困ニ憮ンデ居ル地方ニ、普ク其ノ恩恵ヲ均霑サスト云フ方法ヲ御執リニナツクラドウカト思フノデアリマス(拍手)私ハサウ云フ方法ヲ御執リニナラヌト偶、此ノ映畫ガ月ニ一回或ハ二回、甚シキハ一箇月ニ一回位廻ツタ所ガ、ソレデハ到底満足シナイノデアリマスカラ、モツト頻繁ニ繼續的ニ何等カ文化ノ不平均ヲ是正スル映畫ノ方策ヲ御執リニナルト云フコトニ付テ、一シタインデアリマス

ハ單ナル營利事業デハナインデアリマシテ、所ガ
ウ立派ナ國民的文化事業デアリマス、所ガ
從來ノ社會觀念カラ言ヒマスト、映畫事業
ト云フモノハ何ダカ水物商賣デアル、映畫
關係者ハ水商賣ヲヤツテ居ルト云フヤウナ
考ヘ方ガ一般社會ニモアリマスシ、又此ノ
映畫業者自身ニモサウ云フ考ガ殘存シテ居
ルト思フノデアリマス、是ハ非常ナ誤リデ
アリマシテ、今日映畫事業ハ立派ナ文化事業
ニ依ツテ明確ニ與ヘラレルモノト思フノデ
アリマスガ、ソレニシテハモウ少シ映畫業
者ヲ指導啓發シテ、眞ニ此ノ映畫ノ文化的
使命ヲ理解サセル必要ガアリマス、又俳優
監督ノ人格教養ヲ高メル必要ガアルト思
フ、從來ノ通念カラ申シマスト、映畫俳優
ニナルト云フコトハ、何ダカ不良ノ仲間入
リスルヤウナ、良家ノ子女ガ之ヲ潔シトシ
ナイヤウナ考ヘ方ガアルト思フノデアリマ
スガ、私ハ是ハドウシテモ改善シテ、映畫
ト云フモノノ文化的使命ヲ國民モ、亦映畫
業者自身モ十分理解スル必要ガアルト思
フノデアリマスガ、ソレニシテハ今日ノ澤山ノ
映畫會社ヲ其ノ儘存在サセテ居ツテ、是デ
立派ナ映畫ヲ作レ、是デ俳優監督ハ人格教
養ヲ高メロト言ツテモ、ソレデハ聊カ無理
デハナイカト思ヒマス、私ハサウ云フ國策
的見地ニ立ツナラバ、今日ノ多クノ映畫會
社ヲ統一致シマシテ、一大國策映畫會社ヲ

作ツテ、其ノ財政的基礎ヲ鞏固ニシテ、併優監督ノ待遇ヲ改善シ、人格教養ヲ高メ、ハ思フノデアリマス（拍手）サウ云フ方向ニ進マナイデ、現在ノ儘ノ映畫會社ヲ適當ニ高イ所カラ指導スルト云フコトハ、實際問題トシテハ困難デアリマス、此ノ點ニ關シマシテ文部大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

最後ニ映畫ト云フコトノ一番中心ノ問題ハ宣傳デアリマスガ、今日映畫法ガ内務省ト文部省ト兩大臣ニ依ツテ提案サレタノデアリマスガ、併シ映畫ト云フモノハ、内務省的見地カラ見レバ是ハ社會教育的ニナルノデアリマスガ、更ニ映畫ノ積極性ヲ見レバ宣傳デアリマス、今日支那ガ世界ノ輿論ヲ寧ロ映畫ニ依ツテ「リード」シテ居ル傾キガアル、支那ノ現地デ撮ツタ多クノ「トイルム」ハ、亞米利加ノ「ハリウッド」ヘ送ラレテ、其處デ現像サレテ歐米各國ニ配給サレル、其ノ影響ガ非常ニ日本ニ不利デアルト云フコトハ明ナ事實デアリマス、サウ云フ風ニ今ヤ映畫事業ハ、國內的ニハ社會教育機關デアリマスガ、國際的ニハ是ハ文化戰デアリ、思想戰デアリ、宣傳戰デアリマス、サウ云フ重要ナーツノ映畫ヲ統制シ、適正ニ映畫局ヲ作りマシテ、其ノ宣傳省ノ映畫ナル指導ヲ爲ス必要カラスレバ、私ハドウシテモ宣傳省ヲ置イテ、其ノ宣傳省ノ一局

局トシテ其ノ機能ヲ發揮セシムルコトガ、本來ノ映畫ノ使命ヲ最モ積極的ニ發揮セシムル所以デアルト思フノデアリマスガ、今ヤ日本ノ國際關係ガ益、複雜多岐ヲ極メ重大化スル折柄、宣傳省ノ必要ハナイカ、殊ニ映畫政策ニ關シテ此ノ宣傳省ノ必要ヲ一入痛致スノデアリマスガ、之ニ關シマシテ内務大臣デモ宜シウゴザイマスシ、或ハ文部大臣デモ宜シウゴザイマス、何レナリトモ、宣傳省設置ノ必要ヲ痛感スルモノデアリマスガ、之ニ對スル御所見如何ト云フコトヲ最後ニ御尋シテ、私ノ質問ヲ終リタイト思フノデアリマス（拍手）

社ヲ作ツテハドウカト云フ御尋デアリマシタ、今日政府ガ考ヘテ居リマスノハ、現在アリマスル各會社ノ整理統合ト云フコトモ必要デアリマセウガ、飛躍的ニ國策映畫會社ヲ設立スルト云フコトハ、今日ノ所マダキナ問題デアリマス、今日宣傳ノ必要ナル考ヘテ居ラナイ次第デアリマス、ソレカラ宣傳省ノ問題デアリマスガ、是ハ非常ニ大アルト云フ論ハ、色々論ゼラレテ居ル所デ、我國ニ於キマシテモ其ノ設置ノ必要デアリマスルガ、政府ト致シマシテハ、未ダ其ノ點ニ付テハ具體的ナル問題ヲ申上ゲル時期ニハ達シテ居ラナイノデアリマス、宣傳省ト云フモノガ出來マシタ場合、映畫ヲ此處ニ統一致スト云フコトモ、一つノ方法デアラウト存ジマスガ、今日ハ未ダ其ノ點ニ付テハ具體的ナル結論ヲ申上ゲル時期ニハ達シテ居ラヌ次第デアリマス(拍手)

ハ指導等ヲ致シマシテ、サウ云フ風ニ進メ
ルコトガ必要ト考ヘテ居ル次第デアリマス
（拍手）
○副議長（金光庸夫君） 前川正一君
〔前川正一君登壇〕
○前川正一君 私ハ極ク簡単ニ二三ノ點ニ
付キマシテ質問ヲ致シタイト思ヒマス、御
答辯ノ際ハ成ベク御詳細ニ願ヒタイト思フ
ノデアリマス、政府ガ此度映畫ノ持ツテ居
リマス大衆性ト文化性ト、而モ宣傳、報道、教
化ノ力ト云フコトヲ認メラレマシテ、茲ニ映
畫法ヲ上程サレタト云フコトハ、確ニ一ツ
ノ文化的ナ、日本デハ珍シイコトデアリマ
ス、其ノ意味ニ於キマシテ、一種ノ歴史的
意義サヘアルノデハナイカト、別ニ煽テル
譯デハアリマセヌガ、考ヘルノデアリマス、
所ガサウ云フ意味ヲ持ツテ居リマスル映畫
政策ヲ茲ニ確立シヨウト云フコトノ御考ヲ
持タレル前ニ、何故其ノ基本ヲ成ス所ノ全
體的ナ文化政策ヲ確立シナイカ、其ノ本
ノ全體的ナ文化政策ノ確立ヲセズシテ、映
畫政策ダケヲ茲ニ急グカラ間ニ合セニヤラ
ウト云フヤウナ態度ハ、ドウモ私達ハ腑ニ
落チナイノデゴザイマス、日本ノ今日程最
モ健康ナ文化ノ要求サレタ時代ハゴザイマ
セヌ、民族ノ飛躍的ナ段階ニ於キマシテハ、
最モ健康ナル文化ノ要求ガアルノデアリマ
スルガ、此ノ文化ノ健康ナルモノノ創造ヲ
必要ト致シマスルナラバ、私ハ先ヅ思ヒマ
ス、映畫方針ノ確立ノ前ニ、先づ政府ハ民
間カラ擡頭致シテ居リマスル文化運動ノ個

個ノモノヲ綜合的ニ統一サレマシテ、時代ノ必要ニ對應シ得ルヤウナ力強イ文化政策ヲ確立ナケレバナラヌノデハナイカ、斯ノ云フ意味ニ於キマシテ、是ハ特ニ國務大臣トシテノ荒木サンニ御尋シマスルガ、内閣直屬ノ中央文化委員會ト云ツテモ宜シイノデアリマスガ、音樂モ、演劇モ、映畫モ、文學モ、美術モ、總テヲ綜合統一致シマシテ指導スルヤウナ趣旨ノ委員會ヲ御作リナルコトハドウカト云フコトヲ御尋シタ伊ト思フノデアリマス、是ハ既ニ獨逸ニ於テモ「ゲンベルス」宣傳相ノ下ニ中央文化評議會ナルモノガゴザイマシテ、映畫ノ上ニ、演劇ノ上ニ、非常ナル效果ヲ奏シテ居ルノデアリマスガ、特ニ日本ニ於キマシテモ、此ノ映畫法ガ既ニ獨逸ヤ伊太利ノアノ國策的ナ見地ニ追隨シヨウトスル傾向ガアル以上ハ、ココマデオヤリニナツテモ宜イノデハナイカ、先づ此ノ一點ニ付テ國務大臣トシテノ荒木サンノ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス(拍手)。

第二點デゴザイマスガ、此ノ法案ヲ御出シニナル場合ニ、映畫ガ國家的ノ任務ヲ持ツテ居ル、其ノ重要性ト云フコトヲ先づ謳ハレテ居ル、サウ云フコトヲ言ハレナガラ、映畫ノ經營ハヤハリ個人主義的ノ營利經營ニ放任サレテ居ルノデアリマス、日本映畫ガ今日マデ外國映畫ニ比べマシテ、割合ニ發展シナカツタ云フコトハ、製作費ガ安クテ儲ケノ多イモノヲ作ラウト云ツタヤウナコトガ、日本映畫ノ發達ヲ傷ケテ居ルト

思フ、此ノ營利的ノ經營ノ下ニ映畫事業ヲ放任サレテ、而モ質的ノ向上ヲ圖ラウト云フコトハ、中々困難デアラウト思フノデアリマス、此ノ儘デ行キマスナラバ、入場者ノ少イ、隨テ入場料ノ少イ農村ニ向ツテ映畫ガ出行カナイノハ當リ前デアリマス、特ニ少年ニ必要デアル所ノ少年ノ爲ノ映畫ハ、今後ハ無クナツテ來ルト思フノデアリマス、映畫ト云フモノハ藝術デアル、資本ダケデハ出來ハシナイ、其處ニ働く所ノ監督、「シナリオ・ライター」、或ハ俳優、「カメラマン」ト云ツタヤウナ人達ノ調和シタル藝術的意欲、一種ノ藝術的環境ガナクシテハ良イ映畫ハ出來テ來ナイト私ハ思フ、斯ウ云フ意味ヲ持ツテ居ル映畫ニ對シテ、今度ノ法案ヲ見マースト、ヤハリ依然トシテ取締的ノ内容ガ多分ニアルノデアリマシテ、建設的ニ指導シテ行カウト云フ條規ガ非常ニ少イノデアリマス、モツト之ヲ具體的ニ指導スルト云フ意見ヲ私ハ示サナケレバナラト思フ、是ハ一例デゴザイマスガ、文部省ガ推薦致シマシタ例ノ「風ノ中ノ子供」ト云フ名畫ガゴザイマス、之ヲ日本ノ文化ヲ紹介スル爲ニ佛蘭西へ送ツタ、ソコデ巴里ニ於ケル在留邦人ハ此ノ映畫ヲ觀ヨウト思ツテ探しタケレドモ、何處ノ映畫館ニモナイ、能ク調べテ見ルト、大使館ノ庫ノ中ニ藏ツテアツタト云フコトデアル、是ハ日本ノ官吏ガ映畫ノ持ツ文化的意義ヲ知ラナイトイ云フコトノ一ツノ證據デアルト

藝術的ナ映畫ト云フモノヲ指導監督スルト
云フコトハ中々困難ダト思フ、而モ一方
ハ金儲中心ノ資本家デアル、私ハ映畫ト云
フモノノ將來ニ非常ニ憂鬱ヲ感ズル、斯ウ
ナルト其處ニ先づ考ヘテ戴キタイコトハ、
映畫ノ取締ト云ヒマスカ、指導機關ヲ擔當
スル部門ニ据ヘル人ハ、少クトモ藝術ヲ理
解スル所ノオ役人デアリ、映畫事業ノ特殊
性ヲ理解スル所ノオ役人ヲ据ヘナカツタナ
ラバ、今後政府ノ企圖サレルヤウナ本當ノ
映畫事業ノ發展ハナイノデハナイカト考ヘ
ルノデアリマスガ、是等ニ對シマシテ内務
大臣トシテ、モツト具體的ノ指導方針ナリ
御意見ガアリマスナラバ、此ノ際承リタイ
ト思フノデアリマス(拍手)

ハ仕方ガナイカラ政府ガ積極的ニ農村ニ持
込ム必要ガアル、是ハ一例デゴザイマスガ、
先達テ北海道ノ方ヘ産業組合映畫ヲ持ツテ
行ツタ、所ガ何里ト云フ遠方カラ一晩ニ觀
覽者ガ千何百人集マツタ、而モ夜ノ十一時
頃映畫ガ一回済ンダガ歸ラナイ、モウ一回
見セロト言フノデス、ソレ程農村ハ娛樂映
畫ニ饑エテ居ルノデアリマス(拍手)斯ウ云
フ地方ニハ、積極的ニ政府自身ガ、國民精
神總動員ニ二百万圓モ金ヲ出スナラバ、半
分デモ宜シイ、之ヲ持ツチ來テドンヽヤ
ル必要ガアルト思フ、確ニ效果ガアルノデ
アリマス(拍手)特ニ是ハ文部大臣ト致シマ
シテ、農村向ノ映畫ヲ積極的ニ作ラシテ、
之ヲ農村ニ配給スル、斯ウ云フ點ニ付テノ
御意見ガアルナラバ承リタイト思フノデア
リマス

ガ作ラシテ、ソレヲドンノサウ云フ機關へ持込ム、持込シダケデハ駄目デアル、學校ノ板ノ間ニ以テ御役所カラ持ツテ來タ映畫グカラ、義理ニ薄レヲ切ラシナガラ見テ居ルノデハ駄目デアルカラ、ソレハモウ少シ温カミノアル映畫上映ノ場所ヲ部落ニ作ツテ貴ヒタイ、學校ナラバ學校ノ一部ヲ旨クヤツテ貴ヒタイ、今申上ゲマシタヤウナ集團團體ニ對シマシテ、政府ノ方で上映機關ヲ設備スルト云フコトニ付テ、特ニ費用ヲ用ヒマシテ此ノ際ヤラレルコトハ、國民文化ノ全體的ノ向上ニ私ハ役ニ立ツノデナイカト考ヘル（拍手）特ニ是ハ文部大臣トシテノ御意見ガ承リタイノデアリマス。

其ノ次ノ問題デゴザイマスルガ、檢閱ナ

ノデス、檢閱ハ今マデハ「ファイルム」ニナツテ

カラ檢閱サレタ、切ラレタ、今度ハ臺本ニ

於テ事前檢閱ガ新ニ出來タ、是ハ宜シイ併

シナガラ考ヘテ戴キタイコトハ、此ノ檢閱

ニ關係致シマスル役人ガ、臺本ヲ檢閱スル役

人ト「ファイルム」ヲ檢閱スル役人トガ出來

ル、所謂官僚ノ癖デアリマスルガ、ドウ

致シマシテモ責任逃レニナル、俺ノ責任ハ

此處デ終ル、左様ニナリマスルト終ヒニハ、

結局以前ヨリヨリ以上「ファイルム」ガ「カット」

サレテ來ルヤウナコトニナリハシナイグラ

ウカ、斯ウ云フコトヲ業者ハ今カラ心配シ

テ居リマス、出來マスルナラバ左様ナ部門

ヲ擔當致シマスル役人ニハ、特ニ形式主義者トカ機械主義者の考ヲ持タヌヤウナ人

ヲ入レテ戴キタイ、是モ一ツノ考ダト私ハ

喜バレタ、之ヲヤラウト思ツテ内務省ニ持込シダライター」ガ旨ク書イテ出來タ、「シナリオライター」ガ旨ク書イテ出來タ、

「バス」シナイ、内閣ノ一部ニ於キマシテ出来テ非常ニ喜バレタモノガ、内務省デハ檢閱方通ラナイ、斯ウ云フヤウナ事實モアル

ノデアリマス、其ノ他映畫ノ檢閱ニハ陸軍省、海軍省、文部省若クハ内務省、色々ナ省ニ關係ガゴザイマシテ、各省ヲ順々ニ通

ツテ行ク間ニ切ラレテシマフ、テンノバラノニナル、ソレヲモウ少シ同時的ニ

モツト事務的ニ迅速ニヤラレルヤウナ方法、所謂檢閱ノ一元化デゴザイマスルガ、

之ヲ此ノ際御立テニナル必要ガアルノデナカラウカ、斯ウ思フノデゴザイマス（拍手）

檢閱ガウルサクナリマスルト、業者ガ自然ニ「オペレッタ」ノヤウナ時代性ノナイ所ノ「ナ

ンセンス」物ヲ作り出シテ來ル、檢閱ニ心配ナイモノデアリマスガ、斯ウ云フモノハ國

民文化ニ役立タナイノデアリマス、サウ云フ點ヲ考ヘマスルナラバ、是ハ獨逸ハ中々

聰明デアリマス、檢閱制度ニ於キマシテ陪審制度ヲ採用致シマシテ專門家ノ意見ヲ聽

ク、ソレデ檢閱ヲ旨クヤツテ居リマスガ、年

日本ニ於キマシテモ、此ノ際内務省ヲ御登

ニ、各省及ビ民間ノ業者ノ意見ヲ反映セシ

メルヤウナ、映畫檢閱ノ機關ヲ御作リニナ

ツタラドウカ、特ニ是ハ内務大臣ノ御所見

ヲ承リタイト思フノデアリマス（拍手）

最後ニ登錄制ノ問題デゴザイマス、映畫從

業者ヲ登錄ニスルコト、是ハ一種ノ從業者

ノ質ヲ良クスルト思フノデアリマスガ、登

録銘衡ヲヤル場合ニ、大日本映畫協會ヲ通

ジテヤルト云フコトヲ私ハ聞イテ居ル、所

ガ大日本映畫協會ヲ調べテ見マスルト、此

ノ構成分子ハ政府ノ役人デアル、其ノ次ハ

映畫資本家ト興業資本家、是ハ同一デアリ

マス、松竹見タイナモノデアル、其ノ次ハ

ガ僅ニ映畫監督ノ協會デアル、現業員ノ監

督協會ノ代表ガ八名加ツテ居ルノデアル、

アトハ作家協會デアルトカ、若クハ色々ナ

「カヌラマン」ノ全國的ノ組織ヲ持ツタ協會

ル所ノ選士デアルト云フナラバ、ソコマデ

ノコトヲ國家ノ力ヲ以テヤツタラ宜イデハ

ナイカト思フノデアリマス、之ニ對シマシ

國家的事業トシテ、國民文化ノ第一線ニ走

ル所ノ選士デアルト云フナラバ、ソコマデ

ノコトヲ國家ノ力ヲ以テヤツタラ宜イデハ

ナイカト思フノデアリマス、之ニ對シマシ

テノ御意見ヲ聽キタイ

モウ一ツノ問題ハ、此ノ映畫從業者ノ登

錄制度ニ依リマシテ失業ヲスルノデハナイ

カ、特ニ登錄問題ト關聯スル所ノ失業問題、

色々是等ノ點ニ付キマシテ能ク分ルヤウニ、

テノ御意見ヲ聽キタイ

モウ一ツノ問題ハ、此ノ映畫從業者ノ登

錄制度ニ依リマシテ失業ヲスルノデハナイ

カ、特ニ登錄問題ト關聯スル所ノ失業問題、

色々是等ノ點ニ付キマシテ能ク分ルヤウニ、

テノ御意見ヲ聽キタイ

モウ一ツノ問題ハ、現業者ノ保護規定デゴ

ザイマシテ、是ハ結構デアリマスルガ、年

少婦女子ノ深夜業廢止、是ハ宜シイノデア

リマス、唯此ノ中ニ斯ウ書イテアル、但シ

所轄警察署ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ

アラズ、映畫會社ノ所轄警察署長ガ主管ス

ルコトニナツテ居ルノデアリマス、許可ヲ得

タ場合ハ年少者デアラウガ、婦女子デアラ

ウガ、夜通シ映畫ヲ撮映シテモ構ハヌト云

フコトニ相成ルノデアリマスガ、之ヲ特ニ斯

ウ云フ場合ト斯ウ云フ場合ダケハ許可ヲシ

テモ宜イト云フ、例外規定ヲ列舉的ニヤツ
思フノデアリマスガ、此ノ御考慮ヲ一ツ戴
キタイト思フノデアリマス
其ノ次ノ問題ハ災害豫防ノ規定デアリマ
ス、是モ非常ニ結構デアル、併シナガラ「ス
タジオ」ニ參リマシタラ換氣裝置、暖房裝置
ガアリマセヌ、實ニ非衛生極マルモノデア
ヅテ「スクリーン」ノ上デ見ル映畫ト「スタ
ジオ」ノ中ニ於ケル生活トハ極端ニ違フノ
デアリマス、特ニ夏ナンカニナリマスルト
「セット」ノ中ヲ閉切ヅテ、「ライト」ニ照サレ
ナガラ百何十度ト云フ蒸暑イ釜ノ中見タイ
ナ所デ仕事ヲシテ居ル、極端ナノハ三十何
時間勞働ヲスル、途中デ倒レルト「ホルモ
ン」注射ヲヤツテ又仕事ヲスル、マルデ人間
ヤラ機械ヤラ分ラヌノデアリマス、之ヲ女
優、監督「カメラマン」皆ヤツテ居ルノデア
リマス、斯様ナヒドイ勞働ハ私ハナイト思
フ、ダカラ「スタジオ」デ過勞シテ倒レル
アル、肺結核ハ頻々トシテ出テ來ル、斯ウ
云フ非衛生ナ狀態ヲ考ヘマスルナラバ、特
ニ厚生省ノ方ニ御願シタイト思フノデアリ
マスガ、「スタジオ」製作所ニ工場法ヲ適用
要ダト思フノデアリマス、ソレカラ映畫ヲ
撮ルノデモ三十何時間モ撮ラセナイ、連續
撮影ノ最長時間ヲ決定スル、濟ングラ又直
ゲヤラサレル、其ノ間ノ休養時間ガ短イカ

テ、最低時間ヲ決定シナケレバナラスト思
フ、サウ云フ點ガ特ニ考ヘラレナケレバナラ
ヌト思フノデアリマス、若シ其ノ上ニ出来
マスナラバ、日曜祭日ノ公休日ヲ持ツテ居
ル所ハ一ツモアリマセヌ、休ミナド一ツモ
ナイ、是モ外竝ミニ多少緩和スルヤウナコ
トニ考ヘテ戴キタイ、表面華ヤカニ見エテ
内實極ヌテ慘メナ此ノ映畫從業者ニ對シマ
シテ、若シ厚生省ノ御同情アル御意見ヲ伺
フコトガ出來マスナラバ、極メテ結構デア
ルト思フノデアリマス、極ク簡単デアリマシ
タガ以上ガ質問ノ要旨デアリマス(拍手)
(國務大臣侯爵木戸幸一君登壇)

成ベク事後ニ於テハ、ソレ等ノモノノ不合
格ニナラヌヤウニ努メル、其ノ趣旨ニ於テ
行フノデアリマシテ、此ノ點ニ付テハ只今
御話ノヤウニ機關ガ二ツニナリマスト、ソ
コニ又色々ノ支障ガアルト云フコトニ付テ
ハ、十分ノ注意ヲ致シマシテ、此ノ設ケマ
シタル本旨ヲ十分貫徹スルヤウ致シタイト
考ヘテ居リマス

ソレカラ檢閲ヲ致シマスニ付テハ、何カ
一ツノ委員會等ヲ作ツテ、各方面ノ者ヲ入
レテヤツタラドウカト云フ御尋デアリマシ
タガ、此ノ檢閲ニ付キマシテハ、必要アリ
マス時ハ、現在デモソレゞ専門家ノ意見
ヲ參酌シテ居リマス次第デアリマスカラ、
此ノ際委員會ノ制度等ハ考ヘテ居ラナイ次
第デアリマス

次ニ日本映畫協會ノ改組ニ付テノ御尋デ
アリマス、映畫協會ハ只今御話ノ通リニ昭
和十年ニ設立サレタモノデアリマスガ、今
回此ノ映畫協會ノ援助ヲ得マシテ、登錄ニ
付テノ一つノ機關ト致シマス以上ハ、其ノ
内容ニ付キマシテハ、只今御話ノヤウナ點
モアリマスノデ、十分考慮致シテ、機關ト
シテノ機能ヲ十分發揮シ得ルヤウ致シタイ
ト考ヘテ居リマス

ソレカラ登録制度ノ實施ガ失業者ヲ出シ
ハシナイカ、斯ウ云フ點デアリマス、此ノ
點ハ只今考ヘテ居リマスノハ、餘り嚴格ニ
制限ヲスルト云フ考ハナイノデアリマシ
テ、此ノ點急激ナル向上ヲ圖リマス爲ニ、
或ハ失業問題ヲ起スト云フヤウナコトハ、

只今ノ所ハ考ヘテ居リマセヌ、唯時ニ品位ヲ失墜スルトカ、或ハ風教上影響スルト云フヤウナ問題ガ起リマシタ場合ニ、法規ニ依リマシテ登録ノ取消ヲヤルトカ、業務ノ停止ヲヤル、是ハ己ムヲ得ナイノデアリマスガ、全般的ニ無理ナ引上ヲヤリマシテ、失業問題ヲ起スト云フコトニ付キマシテハ、今日當局トシテハ考ヘテ居ラナイ次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣男爵荒木貞夫君登壇〕

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 第一ノ中央文化委員會ト云フヤウナモノヲ内閣ノ下ニ置イテ、總テノ文化振興ニ關シテ綜合的ノ研究及ビ施設ノ基礎ヲ爲シテハドウカト云フ御意見ノ點ニ付テハ、洵ニサウ云フヤウナ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス、殊ニ世界トノ文化交流ノ最モ必要ナ時デアリ、更ニ日本ノ文化ヲ最モ正確ニ世界ニ向ツテ示ス必要ノアル場合ニ於テ、斯様ナ點ヲ必認メマスルガ、只今ノ所是等ノ業務ハ悉ク文部省ノ所管ニアリマスルノデ、取敢ズ文部省内ニ斯様ナ總テノ施設、及び中央機關ヲ作ルコトニ向ツテ努力致シテ居リマスルノミナラズ、只今はノ一端ヲ現實スルヤウニ致シテ居ル次第アリマス、之ニ依ツテ取敢ズ此ノ方面ノコトヲ致シテ行キタイト存ジテ居リマス

第二ノ映畫ニ從事スル所ノ總テノ人々ニ今少シク藝術的ノ指導ヲシ、之ヲシテ文化振興ノ上ニ對スル映畫ノ效果ヲ十分ナラシムル方法ニ對シテ何カ考ガアルカ、斯ウ云

フヤウニ承ツタノデアリマスルガ、其ノ必

要ヲ十分認メマシテ、今後斯ウ云フ方面ニ

對シテハ、内務當局トモ又其ノ他ノ方面ト

モ十分ナ連繫ヲ執リマシテ、其ノ趣旨ヲ貫

徹スルヤウニ致シタイト存ジマス

第三ノ農村ニ對シテノ映畫配給ノ問題デ

アリマスルガ、先程來段々問題ニナリマシ

タノト、又映畫製作ニ關シテ、各集團ニ對

シテソレドヽ部門ヲ異ニシテ作ツテハドウ

カト云フヤウナコトモ、必要ナ點ト考ヘマ

スルノデ、十分考ヘテモ居リマスシ、是等

ノ點モ實現スルヤウニ努力ヲ致シタイト考

ヘル次第デアリマス(拍手)

〔政府委員津崎尙武君登壇〕

○政府委員(津崎尙武君) 御尋ノ中ノ映畫

製作所ニ工場法ヲ適用シテハドウカト云フ

コトデアリマスガ、是ハ「フィルム」ノ加工

ヲ行フ作業場ニ對シテハ、其ノ性質カラ致

シマシテ工場法ヲ適用シテアルノデアリマ

ス、隨テ其ノ關係上健康保險法モ之ニ適用

シテアルノデアリマスガ、其ノ他ノ職員ニ

法ヲ適用シ、隨テ健康保險法ヲ適用スルト

云フ譯ニハ行キマセヌケレドモ、映畫俳

優其ノ他ノ職員ニ付キマシテハ、只今御承

知ノ通リ職員健康保險法ガ委員會デ審議ニ

ナツテ居リマスカラ、是ガ制定セラレマシ

タナラバ、此ノ法ニ依ツテ任意加入ノ方法

ニ依ツテ、健康保險ガ出來ルコトニ相成ルノ

デゴザイマス。

ソレカラ只今年少者トカ婦女子ノ夜業禁

止、其ノ程度ノコトナドニ關係シテノ御話

デアリマシタガ、深夜業禁止ト云フノハ、

滿十六歲未滿ノ者及ビ女子ニ對シマシテ

ハ、午後十時ヨリ午前五時ニ至ル所謂深夜

業、是ハ禁止スルト云フ考デ、隨テ此ノ法

律ニ關聯スル勅令ヲ制定スルコトニナル豫

定デゴザイマス 其ノ他ノコトニ付キマシ

テハ、警察ノ云々ト云フコトハ、是ハ季節

ノ繁忙ナ時トカ、或ハ「ロケーション」ノ場

合ノ如キ所ヲ緩和シテ、其ノ所轄警察ノ許可

ニ依ツテ致スト云フコトニヤリタイト思ツ

テ居ルノデアリマス、尙ホ只今内務大臣カ

ラモ御答辯ニナリマシタガ、御話ノ通リ藝

術的ノコトデアリ、氣分デ行クト云フコト

ガアルサウデアリマスカラ、中々一定ノ時

間ヲ決メテ、其ノ決メタ通リニヤルト云フ

ヤウナコトハ難カシイ場合ガアルト云フコ

トデアリマシテ、隨テ一律ニ其ノ時間ヲ規

定スルト云フヤウナコトハ、今考ヘテ居ナ

イト云フコトデゴザイマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 三田村武夫君

〔三田村武夫君登壇〕

○三田村武夫君 既ニ同僚各議員カラ殆ド

論ジ盡サレマシタノデ、私ハ残サレタ別ナ

方面カラ簡単ニニ三ノ點ヲ御尋致シマス

日本國民ノ中デ一箇年ニ映畫ヲ觀ル者四

億ダト云ヒマス、ソレハ今日此ノ映畫ニ國

民ガ如何ニ多クノ關心ヲ持ツテ居ルカノ一

例デアリマス、私ハ映畫ノ一畫面ガ與ヘル

影響ガ、數万言ノ演說ヨリモ、數百頁ノ著

書ヨリモ、ヨリ強ク印象付ケラレルコトヲ

知ツテ居リマス、其ノ意味ニ於テ此ノ映畫

法ノ制定ハ重要ナル意義ヲ感ジテ居リマス、私ハ先

シヅ最初ニ文化警察ノ任務ニ付テ内務大臣ニ

此ノ映畫法案ヲ通覽致シテ居リマスト、一

ツノ文化警察ノ立法デアリマスガ、私ハ先

テハ、警察ノ云々ト云フコトハ、是ハ季節

ノ繁忙ナ時トカ、或ハ「ロケーション」ノ場

合ノ如キ所ヲ緩和シテ、其ノ所轄警察ノ許可

ニ依ツテ致スト云フコトニヤリタイト思ツ

テ居ルノデアリマス、尙ホ只今内務大臣カ

ラモ御答辯ニナリマシタガ、御話ノ通リ藝

術的ノコトデアリ、氣分デ行クト云フコト

ガアルサウデアリマスカラ、中々一定ノ時

間ヲ決メテ、其ノ決メタ通リニヤルト云フ

ヤウナコトハ難カシイ場合ガアルト云フコ

トデアリマシテ、隨テ一律ニ其ノ時間ヲ規

定スルト云フヤウナコトハ、今考ヘテ居ナ

イト云フコトデゴザイマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 三田村武夫君

〔三田村武夫君登壇〕

ノ進化發展ト云フコトヲ考ヘナケレバナリ

マセヌ、サウシテ其ノ文化警察ノ上ニ期待

サレルモノハ、國家ノ文化目標ノ追求デア

リマス、サウシテソレヘノ積極的指導デア

リマス、映畫ハ一ツノ流行ヲ作ツテ行キマ

ス、其ノ際其ノ指導ヲ誤ツタナラバ、國民ニ

與ヘル影響モ甚ダ大キイ、此ノ點ヲ考慮シ

マスガ故ニ、特ニ文化警察ノ新シイツノ

立法ヲ致シマス今日ニ於テ、内務當局ガ其

ノ所謂文化警察ニ付テ如何ナル見解ヲ御持

チデアリマスカ、御伺致シタイノデアリマ

ス

第二點、映畫法ヲ制定スルナラバ、ナゼ

演劇法ヲ作ラヌカ、此ノ點デアリマス、映

畫モ演劇モ言論、出版ト同様、思想表現ノ

一形式デアリマス、言論、著作、印行、集

會、結社ノ思想表現ガ法律ニ依ツテ規制サ

レ、茲ニ又映畫ニ依ル思想發表ガ立法化サ

レルナラバ、演劇ニ依ル意思表示モ亦立法

化サレル必要ガアリマス、殊ニ所謂文化統

制ノ見地カラ、演劇法ノ制定ヲ必要ト考ヘマスガ、

同時ニ、演劇法ノ制定ヲ必要ト考ヘマスガ、

内務當局ハ如何御考デアリマスカ、憲法第

二十九條ノ所謂言論出版集會結社ノ自由ハ、

私達最モ廣イ意味ニ解シタイノデアリマス、

從來映畫ニ對スル取締ト致シマシテ、内務

當局ハ映畫ヲ出版ノ一種ト眺メテ來テ居リ

マシタ、サウシテ出版檢閱ト同様ノ建前ニ

於テ、「フィルム」ノ檢閱ヲ致シテ居ツタモ

ノデアリマス、大審院ノ判例モ、「ファイルム」ハ出版物デアルト云フヤウナ判例ガ出テ居リマシテ、其ノ見解ノ下ニ取締ヲシテ來テ居ツタノデアリマスガ、今日映畫演劇ノ與ヘル對社會的影響ノ至大ナルニ鑑ミタ場合ニハ、之ヲ立法化スルコトハ當ニ必要ナ手段デアリマス、隨テ演劇ニ付テモ同様ナコトガ言ヘルノデアリマシテ、映畫ノ一畫面ガ數千言ノ演説ヨリモ強イ印象ヲ與ヘルト同様ニ、舞臺ノ一情景モ亦甚ダ強イ刺戟ヲ與ヘマス、私ハ曾テ日本ノ左翼劇團ト稱セラレル劇團ニ依ツテ上演サレマシタ「西部戰線異狀ナシ」ト云フ劇ヲ見タコトガアリマス、何トモ言ヘナイ深刻ナ氣分ヲ味ヒマシタ、科白ガナクトモ其ノ「ゼスチュア」ニ依ツテ觀衆ハ甚ダ多クノモノヲ酌取ルノデアリマス、此ノ演劇ガ地方ノ一官憲ノ手ニ依ツテ取締ラレ、規制サレテ居ルコトハ甚ダキナ矛盾デアリマス、私ハ此ノ際映畫法ヲ制定スルナラバ、當然演劇法モ制定シテ貴ヒタヨ、寧ロ内務省ハ同時ニ演劇法ノ制定ヲナゼ考ヘナイカ、其ノ怠慢ヲ私ハ責メタイノデアリマス、演劇ハ脚本ヲ檢閱スルカラ差支ナイデハナイカト申シマスガ、脚本ト上演トハ違ヒマス、脚本ヲ讀ンダ讀者ト舞臺ニ見セラレタ觀客トハ大キナ違ヒガアリマス、此ノ點私ハ内務省ハ篤ト御考慮願ヒマシテ、演劇法ノ制定ニ格段ノ考慮ヲ拂ハレンコトヲ希望致シマス

第三點、思想統制ノ目標ニ付テ内務大臣及ビ文部大臣ニ簡單ニ御尋ヲ致シマス、勿論映畫法ノ制定モ思想統制ノ一形態デアリマス、戰時下ノ思想問題ハ言フマデモナク重要デアリマスガ、國家方苟モ權力作用ヲ以テ思想ノ統制ヲ行ハントスルナラバ、其ノ目標ヲ何處ニ置クカノ點ハ又甚ダ重要デアリマス、即チ國家國民ノ生存ニ害ヲ爲シ、社會ノ安寧ヲ害スル思想ノ排除ハ勿論必要デアリマスガ、ソレガ思想統制ノ目標デハアリマセヌ、思想統制ノ目標ハ、思想文化ノ進歩發展ガ國家國民ノ發展繁榮ニ寄與スルコトヲ十分考慮シタ上ニ於テ、其ノ目標ヲ何處ニ置クカヲ考ヘネバナラナイノデアリマス、言フマデモナク、ソレハ國家ノ針路ト同一方向ニ向ケラレネバナリマセヌ、即チ日本デ言フナラバ、日本ガ進ム道ト其ノ同ジ方向ニ向ツテ、思想ノ統制ガ行ハレナケレバナラナイノデアリマス、稍、具體的ニ申シマスナラバ、國家ノヨリ高キ理想ヲ目標トスルコト、日本デ言フナラバ不動モノガ思想表現ノ一形式デアリ、憲法二十九條ノ所謂思想發表ノ自由ノ一部分トシテ、茲ニ立法化スルナラバ、其ノ法律ニ盛ラレル内容ハ、實體的ニ法律ノ中ニ規定サレナケレバナリマセヌ、ソレハ丁度俗ヲ素スモノハイケナイトカ、國憲ヲ紊亂スルモノハイケナイトカ、刑事被告人ヲ賞罰スルモノハイケナイトカ云フ實體的規定ガ、法律ノ內容ニ現ハレテ居ナケレバイケマセヌ、所ガ此ノ映畫法案ヲ見マスト、殆ど多ク映畫營業、即チ映畫事業ヲ對象トシ

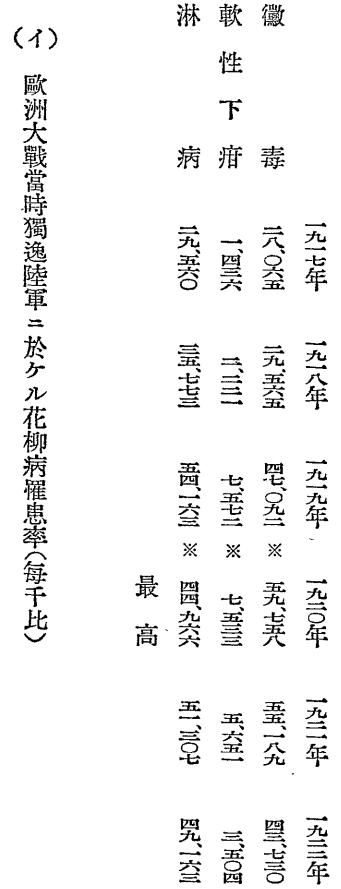
映畫ハ社會萬般ノ事象ヲ畫面ニ反映シテ參リマスガ、是等ヲ取締ノ對象トシテ眺メタル時、警察當局ハ如何ニ之ヲ扱ヒ、更ニ其ノ教義的ナ立場カラ指導啓發ノ任ニ當ラレル文部當局ハ、此ノ思想統制ノ目標ニ付テ如何ニ御考ニナリマスカ、御伺致シマス。最後ニ本法ハ一體立法ノ目的ト對象トヲ誤ツテ居ラヌカ、此ノ點ヲ一言御伺致シマス、ト申シマスノハ、此ノ映畫法案ハ映畫ノ製作乃至映畫事業其ノモノ、言葉ヲ換へテ申シマスト、映畫營業其ノモノヲ對象トシタ立法デアルカ、乃至ハ映畫ノ内容、其ノ文化的價値乃至ハ社會的影響ヲ規制スル目的ノ立法デアルカ、此ノ點デアリマス、第二ノ點デ申シマシタ如ク、此ノ映畫ト云フモノガ思想表現ノ一形式デアリ、憲法二十一条ノ御答致シマス、第一點ハ文化警察ノ任務ニ御答致シマス、第一點ハ文化警察ノ任務ト云フ御尋デアリマス、是ハ色々ニ考ヘラレル點モアルト存ジマスガ、文化警察ト云フノハ、從來其ノ對象ニ依リマシテ出版警察トカ、或ハ宗教警察トカ、演劇映畫ニ對スル警察等ノ言葉デ述ベラレテ居ルモノヲ總稱スルモノト思フノデアリマシテ、此ノ趣旨ノ警察ハ從來動モスレバ取締ノ方面ニスル警察等ノ言葉デ述ベラレテ居ルモノヲ居ツタヤウニ存ジラレマスノデ、今後ハ此ノ専ラデアツテ、サウシテ國民文化ノ進展ノ爲ニ之ヲ誘掖指導スルト云フ方面ガ缺ケテ居ツタヤウニ存ジラレマスノデ、今後ハ此ノ方面ニ向ツテ、從來ノ如ク簡單ニ安寧秩序、或ハ善良ナル風俗ヲ壞亂スルト云フヨリモ、モウ一步進シデ文部當局其ノ他ノ活動ト相

タ規定デアリマシテ、如何ナル映畫ヲ作ルカノ實體的規定ガアリマセヌ、政府ハ之ヲ命令ニ委任サレルヤウデアリマスガ、少クトモ私ハ立法ノ形式トシテハ遠ダと思ヒマス、寧ロドウ云フ映畫ヲ作ルベキカハ法其ノモノガ明示シナケレバナリマセヌ、サウシテ公正ナ進歩ト正義ヲ根幹トスル映畫ト云フモノヲ作ラセル、是ガ映畫行政ノ、映畫國策ノ、映畫政策ノ態度デナクチヤナラヌト思ヒマス、此ノ點ニ對シテ立案者デアリマス内務當局ハ如何ニ御考デアリマスカ、以上四點ヲ御伺シマシテ私ノ質問ト致シマス(拍手)

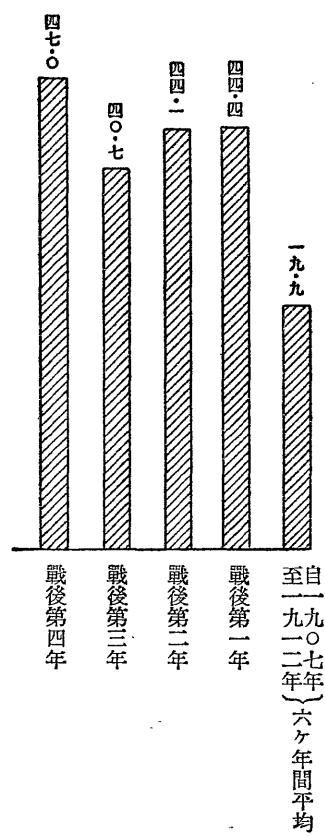
(國務大臣侯爵木戸幸一君登壇)

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 三田村サンニ御答致シマス、第一點ハ文化警察ノ任務ト云フ御尋デアリマス、是ハ色々ニ考ヘラレル點モアルト存ジマスガ、文化警察ト云フノハ、從來其ノ對象ニ依リマシテ出版警察トカ、或ハ宗教警察トカ、演劇映畫ニ對スル警察等ノ言葉デ述ベラレテ居ルモノヲ總稱スルモノト思フノデアリマシテ、此ノ趣旨ノ警察ハ從來動モスレバ取締ノ方面ニスル警察等ノ言葉デ述ベラレテ居ルモノヲ居ツタヤウニ存ジラレマスノデ、今後ハ此ノ専ラデアツテ、サウシテ國民文化ノ進展ノ爲ニ之ヲ誘掖指導スルト云フ方面ガ缺ケテ居ツタヤウニ存ジラレマスノデ、今後ハ此ノ方面ニ向ツテ、從來ノ如ク簡單ニ安寧秩序、或ハ善良ナル風俗ヲ壞亂スルト云フヨリモ、モウ一步進シデ文部當局其ノ他ノ活動ト相

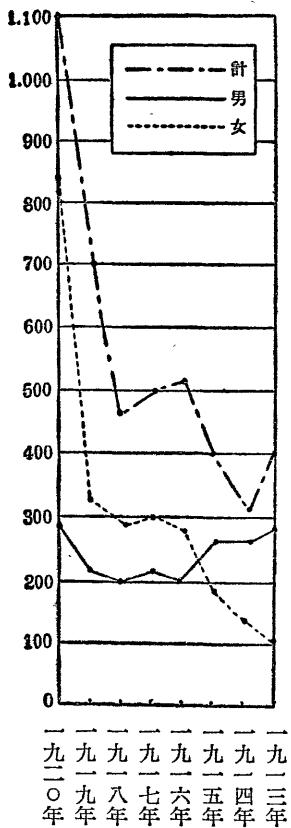
歐洲大戰中獨逸ニ於ケル入院患者ノ統計



(ホフマン調査)



(ロ) 戰役後占領地帶トナリシ獨逸普瓦ルツ地方花柳病患者數



徽軟性下疳毒
淋花柳病以外ノモ

歐洲大戰中英國花柳病治療所ニ於ケル患者總數(ハリソン氏報告)

無 料 檢 查
顯 微 鏡 檢 查 二、六七 三、五四 三、一三 充、一六

ワッセルマン反應

毛、五三 穂、三九

一〇四、三六 二八、三四

一 一 一

即チ一九二〇年マデ新患者ハ年々著シク増加シ、花柳病總患者數ハ一九二〇年ニ於テ最高ニ達シ、一九二一年ヨリ減少ノ傾向トナレリ。

官報號外 昭和十四年二月十日 衆議院議事速記錄第二十三號

五三〇